

〈資料紹介〉

島津家蔵 黎明館寄託能楽文書について

関 屋 俊 彦

はじめに

桜島の噴煙を眼前に、西郷隆盛が自刃した城山を背景として、県立図書館に隣接して鶴丸城跡地（鹿児島市城山町五番一）に鹿児島県歴史資料センター黎明館がある。後に知ったことであるが、そこは昔日の城内の能舞台の位置とほぼ一致もしていた。以下、黎明館と略称することとする。開館は昭和五十八年十月二十日と言うことである。博物館事業としての展示が主体であるが、その研究資料室に旧薩摩藩主島津家を継承される島津忠承氏（現在、東京御在住）の寄託された夥しい蔵書がある。旧友浜田利安氏（現在、県立出水高校日本史教諭）の紹介を受け、資料室の御厚意により、最終的には島津忠承氏の御快諾を得て、能楽関係文書披閲の運びに至っ

た。近代文書主体ではあるが、その多くは新資料である。近世能楽史研究の、また地方史研究を埋める一助となり得よう。

なお本稿は昭和六十一年十二月六日、藝能史研究会東京例会において報告したものをまとめたものである。

資料整理の手順について

黎明館所蔵文書については開館記念号に紹介されている。但し、そこには能楽関係文書は見出せないようである。それ以外の島津家寄託文書が唯一の能楽関係文書となる。しかし、当文書は現在のところ、非公開放いとなっている。とはいうものの、資料室スタッフの御努力により仮目録（B4判ルーズリーフノート二冊）が作成されている。そのうち能楽関係は行李一つづら並びに別置館組一束で、総計百二十一点である。仮目録の整理番号で言えば、36 39 68 113である。

百二十一点の文書は仮目録の整理番号順が本来であつた訳では勿論ない。長年月の間に入れ替えが繰り返されたであらうため、思いもかけない所に一緒にされている場合が多々ある。更に資料整理には種々の方法が採られよう。謄版本を利用して手付を記入している場合、版本謄本とするか手付本とするか等迷うところである。以下の私の分類も最善とは言い切れない箇所が出るであらう。ただ、無理に分類するより、資料は元からあつた状態であることが望ましいと考え、たとえば紙大袋に一括して資料が入れている場合は、その袋の表記記載順に並べておいた。すなわち次の通りである。

シテ方伝書		謄名寄・謄写本	文書番号
一	謡名寄・謡写本	(1) ~ (4)	
二	小書・仕舞手順	(5) ~ (8)	
囃子方伝書			
三	大小鼓冊子伝書	(9) ~ (10)	
四	大小鼓重習一括	(17) ~ (55)	
五	小鼓伝書	(30) ~ (52)	
六	大鼓伝書	(53) ~ (55)	
七	史料	(56) ~ (59)	
八	版本	(60) ~ (67)	
九	能組	(68) ~ (121)	
別	能務会員名簿	(121)	

「能務会員名簿」は七の史料の項目に入れて然るべきものだが、九の「能組」と、また全体とも関わってくる大事な名簿なので、あえて別項目を立てた次第である。以上、九項目の分類を試みた。

それぞれ最小限の書誌をとった。通し番号の次の表題は内題を優先したが、内容に基づき適宜仮称した場合も多い。以下、装丁・冊数・寸法（単位、耗）・丁数・表紙形状・題箋・内題・奥書・内容特記事項と続く。能組については後に説明するとして、次に文書通し番号に従つて簡略な説明を加える。なお、引用に際しては句読点を任意に打った。行替えは／で示す。又、ミセケチは省略し、曲名に極端な宛字がある場合、通常の表記に改めた。

(1) 金春流名寄 折本 121×88。十四折。黄地覆表紙中央手書貼題箋

「金春流名寄」

(2) 宝生流名寄 豆本仮綴一冊。62×44。墨付二十二丁。内題「宝生流名寄」。奥「文化庚午年十一月改」

(3) (1)「金剛流 落葉 大コ入 小鼓附有之」。仮綴一冊。252×180。

九丁。

(4)「落葉 或云京落葉トモ、又云小野落葉トモ 太夫独吟一調 金剛流節」。仮綴一冊。211×193。三丁。

(5)「弘化三丙午年六月廿七日、大倉六蔵自身家之留、自う写而持来、独吟一調也。菊の露 こん春流節」。仮綴一冊。211×196。

二丁。

(二)「独吟 菊の露 一調附」(但、包紙表書)。外題「菊の露」。

仮綴一冊。140×200。二丁。

(三)「太刀堀切」。折帖。157×77。七折。奥「右ふし、観世流」。

(四)「金剛流花草」。仮綴一冊。273×203。五丁。

(五)「日光詣」。仮綴一冊。144×207。十丁。奥「嘉永三年牧野備前

守満中・村井多蔵、新製調之者也。(略)同四年亥年四月。」

(六)「要石」。仮綴一冊。288×203。十八丁。奥(朱書)「嘉永四辛

亥年五月以二橋刑部卿殿御所持正本二写得畢。(花押)」

(七)「宝生曲文句入舞入文句 源氏供養 雲かくれ扇 重習」。仮

綴一冊。247×172。五丁。

(八)「今春流吉野 脇能也」仮綴一冊。143×205。十丁。

(九)「作物 絵一枚。157×372。

(十)「子方かつら絵 一枚。158×144。

(十一)「装束付 一枚。155×497。

(十二)「観世金春金剛喜多習物名寄」 仮綴一冊。137×200。二十六丁。

(十三)「公義御書上一調鼓 大倉長右衛門・同六蔵」 仮綴一冊。138

×201。三丁。奥「天保十五年辰七月 大倉長右衛門・同六蔵」。

(十四)「書上無之品」 一枚。137×139。

(十五)「一調一声」 一枚。138×182。

(5) 観世鉄之丞小書伝書三種

(1) 弘化三丙午閏五月送、後見観世鉄之丞二差出口伝書二通之内 158

×557。

(2) 弘化之丙午年閏五月從、観世大夫の後見鉄之丞所二差出小習物口

伝書二通之内 183×258。

(3) 嘉永六丑三月從、大友方習観世鉄之丞二差出口伝書 162×337。

(6) 諸能流手心得 仮綴一冊。155×213。墨付二丁。表紙「四番之内／

弟子ニ言聞セ不可申候事／諸能流手心得」

(7) 鞍馬天狗／松風／手附手順覚 一枚。215×270。

(8) 高砂／羽衣／手附手順覚 一枚。162×246。

(9) 大倉流大鼓美濃流小鼓手附伝書 一冊。144×174。二百六十八丁。

朱地盆小絵模様布覆表紙。中央貼題箋「大・大倉流、小・美濃流、

大小鼓手配口伝 上」

00三よみ物 一冊。170×205。列帖六丁遊紙二丁。金銀唐織地模様布

覆表紙。中央 書貼題箋「三よみ物」。

(11) 大倉流大鼓美濃流小鼓手附伝書 一冊。115×175。百五十二丁。朱

地金小絵布覆表紙。中央貼題箋「大 大倉流／小 美濃流／大小鼓

手配口伝 下二」。

(12) 大鼓小鼓教訓集 一冊。115×172。九十四丁。草花車模様地薄緑装

束布覆表紙。中央貼題箋「大鼓小鼓／教訓集 全三」。

03 小鼓書拔習手配 一冊。111×172。墨付五十九丁。遊紙十九丁。鳳凰寫水色地、裝束布覆表紙。中央貼題箋「小鼓 書拔習手配 全四

一子相伝物書入」。奥「右、嘉永六年五月八日書留也。金剛左近・三太郎・雄之助ノワキ才次郎ノ返上、右之通也」

04 一調鼓 全五 紫地小鳥小蝶筋雲模様。113×112。一冊。薄紙二百三十八丁。遊紙前後各一丁。金地題箋「改正愷鼓美濃流 一調

鼓 全五」。内題「四十四番 小鼓一調手配附 大倉流并ニ外ニ一調一管鼓手配ノ右外ニ當時公議候書出不致品々左之通ノ一調一声ノ

乱曲物ノ蟻通ノット入」。奥「以上一調鼓五十七番手配畢。弘化三丙午年七月書写并手配附明細認^{しんぎん}相濟云々。忍誌(花押)。自書生五

十六」。又、別に樟腦袋(116×49)があり、その袋の表には「廿五年十月」と記す。

05 小鼓口伝并聞書心覚 仮綴一冊。160×111。墨付七十七丁。遊紙前後計十六丁。外題手書「私云留之」小鼓 口伝并聞書心覚 書拔習手配 覚六」。

06 表紙二枚 111×203。表裏一对。紫地筋雲小鳥小蝶模様。07 宝生流関寺小町小鼓手配 一冊。221×165。四十四丁。挿紙一枚。

外題「極伝一子相伝之内手配 一宝生流 関寺小町并ノ二ノ上觀世流之物白囃子暫納 全」。内題「極伝之内手配一子相伝之物 宝生

座関寺小町明細 星附」。

08 白はやし 仮綴一冊。161×226。墨付四丁。遊紙一丁。黄地。外題「白はやし 二ノ下、三ノ内」。

09 関寺小町 仮綴一冊。131×203。十八丁。地黄覆表紙。外題「三関寺 池田古能、非當時専用」。内題「小ツ、ミ 池田本写 古伝

非當時専用」。奥(朱)「池田市小寺家之留非當時専用ノ天保十年八月二十八日写」。

0A 大蔵流庄左エ門方・船弁慶白拍子 仮綴一冊。131×200。黄地。表紙番号「四」とする。墨付四丁。遊紙四丁。

0B 置鼓手配 極秘 一枚 0C うたひなし 大倉長右衛門露書 包紙入。一枚。

0D 龍田川辺 包紙入一枚。奥「天保十五辰年初秋廿八日、当流秘密之一曲墨付差上候。ノ右者公儀御三代大猷院様より拝領之御文句」。

0E 八恋重荷ノ手附 仮綴一冊。210×285。六丁。外題「八 恋重荷」。0F 金剛流神道神楽和留 一冊。222×113。黄地仮綴表紙。外題「一子相伝之内別伝 九 金剛流神道神楽和留 申合 全」。

0G 鷗鷯小町手付 一枚。195×516。奥「大蔵六蔵家之伝留書写。安政二乙卯也四月十五日」。

0H 金剛流雪手付 仮綴一冊。270×200。外題「弘化四丁未年十月廿九日申合取様相濟 雪 重習之内 金剛流」。

0I 儼法のこと

(4) 置鼓 三世ノ出習秘伝 仮綴一冊。170×180。

(5) 嘉永六甲寅年二月十五日書付 一枚。280×401。

(6) コイ合のこと 一枚。153×135。

(7) 落葉 仮綴一冊。270×200。十丁。外題「おち葉 采色 節重習／大組不入 観世流」。

(8) 千尋大鼓習 二通(外題マ、)

(9) 千手 中ノ舞打切之習 一枚。195×400。

(10) 羽衣彩色之伝 三枚。

(11) ボサノカケリ・二枚

(12) 仕舞運び順図 (13) 能組

(14) 砧小鼓手配金剛流 仮綴一冊。

(15) 遊行柳宵柳之舞習 一枚。

(16) 大倉流小鼓皆伝折紙 文化九年十二月。

(17) 大倉流 一調一声一管之内小鼓ニハ無之。

(18) 弘化三丙午五月 金剛流之笛申合。

(19) 式三番之巻 一冊。105×76。列帖装。墨付十五丁、遊紙二丁。萬葉模様、紺地布覆表紙。題箋中央手書「式三番之巻」。奥「文化九年壬申八月、式三番之手配、其外諸定リ之條々、配置所衷正也。なりをき(花押)」。

(20) 為初心之覚書 一冊。109×82。墨付五十八丁、遊紙十一丁。列帖

装。萬葉模様黄土地布覆表紙。中央手書貼題箋「為初心之覚書」。奥

「文化九年申正月記。右、池田市兵衛家本写／文化八年辛未二月朔日二家本ヨリ皆伝之者ヨリ写置。仍而如件。」

(21) 文化七年以来大蔵六蔵習目録写 仮綴一冊。70×120。墨付五丁、遊紙三丁。外題「文化七年より勤ル、大蔵流・美濃流、六蔵より来ル習物。目六写留并鼓筒極、添状写留」。

(22) 弓箭立合 一冊。151×160。三丁。黄土地覆表紙。手書外題「弓箭立合／諸事式三番／同前当願マテ精進」。

(23) 別段一調附 仮綴一冊。128×185。四十三丁。

(24) 観世流小鼓一調并置鼓手附 一冊。87×173。墨付七十三丁。遊紙十六丁。無地覆表紙に外題手書。

(25) 観世流小鼓手附 仮綴一冊。112×205。填付六丁、遊紙九丁。外題手書「小つゝみ 観世流」

(26) 観世小つゝみ 一枚。165×230。

(27) 幸流小鼓手附 仮綴一冊。144×205。二十五丁。外題手書「小つゝ 幸流」

(28) 幸流小鼓習覚書 一冊。120×181。百六十六丁。前後遊紙各一丁。水色地布覆表紙。左肩題箋手書「小つゝ 幸」。

(29) 幸五郎次郎方習物之段覚 一枚。190×410。

(30) 小鼓一調(藤戸)ノ隅田川ノ手附。仮綴一冊。214×217。墨付四丁。

外題中央手書「一調」。

640 小鼓八咸陽宮ノ手附 仮綴一冊。274×277。墨付三丁。外題中央手書「咸陽宮 新製 一調配シテ控」

641 八道成寺ノ小鼓手附 一冊。167×200。墨付十二丁。黄土地仮覆表紙。右肩朱「十番」。金箔散らし題箋「道 全 極重習之内 一子相伝之内ニ而無之候」。

642 置鼓一ノ次第打出一ノ声越書拔 一枚。276×475。

643 「神舞」「男舞ノカ、リ」小鼓手附 一枚。284×405。

644 「楽」小鼓手附 一枚。282×405。

645 大鼓大倉流習事目録 一冊。151×111。列帖十八枚。

646 大倉流大鼓一調一管一ノ声目録

647 岡山様へ相伝、大倉長右衛門認書 二枚。

648 早川藤右衛門免許状一覽 文政九年大倉長右衛門認書 一枚。

193×539。文政五年八月廿八日御入門。

649 寛政三年水戸邸太鼓覺 一枚。山脇亥右衛門

650 鈴木勘十郎 天保十五年 一枚。

651 連日御能差略仕候御所望書写 一枚。185×672。覆題「嘉永六癸丑

年十一月末、將軍宣下ニ付 鷲仁右エ門」

652 一噌又六伝来之秘伝簡作名客 一枚。191×900。

653 幸若丸の事蹟 一枚。176×950。

654 二百拾番譜目録 一冊。246×178。十七丁。紺地覆表紙。左肩貼題箋「二百拾番譜目録」

655 習道書(版本) 一冊。246×178。十丁。地青表紙。五輪模様。題

箋千鳥キラ入。序「明和九壬辰年八月九日 觀世左近察元章 角印二」。

656 金剛流謡転写本 「桧垣ノ卒都婆小町ノ鶺鴒小町ノ姨捨ノ全」。仮綴一冊。135×200。四十八丁。

657 觀世当流囉謡拾遺大成ノ並大小鼓附ノ笛之手引 二冊。132×190。

茶地花輪模様覆表紙。中央貼題箋手書「当流上掛囉謡大成」。奥「龍

幽写ノ享保第元 丙申 歲正月吉祥日ノ江戸日本橋南一丁目ノ書林白松堂万屋潛兵衛ノ壽梓(角印)」

658 下掛囉謡大成 一冊。127×193。黄土地覆布表紙。外題手書「大

ツ、ミ 大倉」。八十番。奥「寛政三辛亥初秋補刻 越後屋太郎左

エ門 和泉屋善兵衛求版」。

659 文化七年宝生流小謡版本 一冊。145×197。紺地唐草模様布覆表

紙。中央貼題箋「囉謡」。奥「文化七庚午歲正月改正 宝生太夫(朱

印)」。

660 小鼓手附書込小謡版本 一冊。134×172。123丁。黄表紙。仮綴。

661 「桜井」版本部分 一枚。312×416。

伝書解題

- (1)は「首能」以下曲名を表裏に記す。又、祝言小調を指示する。
- (3)は紙袋に一括して入っているもの。その包紙の上書には「前之習 大夫独吟一調 乱曲のうたい 遠き品ニ入 弘化三丙午年五月より取調御品々前包ニ致置候事。此品常々相用由候品柄ニテ無之候間、入用見合として包置也。一、落葉 金剛謡ニ而 二、菊のつゆ 金春謡ニ而 三、太刀堀 観世流謡ニ而 四、花軍 五、日光謡 喜多 六、要石 喜多流 七、源氏供養 長豊句 宝生」とある。
- (2)と(2)は次の(4)に入っていたが、内容からしてこちらの(3)に組み入れた。(4)には「弘化三丙午年五月十七日、金剛右近大夫直筆句節付本、大倉六蔵大夫与申合、独吟一調小鼓手配也。此本文字筆者大蔵六蔵、節附筆者金剛右近太夫(花押)」との奥書がある。
- (5)の奥書には次のような申し合わせ時のこと書きとめられている。「花軍 金剛弟子藤太郎・吉須太郎弟子吉須右衛門、大・長右衛門弟子四郎太、小・六蔵、笛・又次郎、太・朔之助、鷺流。嘉永四年亥年四月卅日。右之人数ニ而金剛大夫右近申合相調ニ付畢。附如此本留置ものなり。亥五月朔日」。
- (6)の「要石」は外題ではなく、内容より判断した。又、「水戸前中納言御自作也」とか「此本者宝生流ナリ」と言った書入がある。
- (2)には「嘉永五壬子十二月一番手配、大倉喜左エ門父子亥取調認

置物也」との序文がある。又、別に「大コ配金春又次郎方也」との朱書注書込みがある。

(4)の絵は説明があり、それぞれ「鏡」「マガ玉数不知」「青布白布凡一丈」「柳」とある。

(2)には「前仕手 面三光・花色のしめ・水衣・こし帯・こしみの・短刀、連 焼常体、子方 摺箔・色大口・長絹・こし帯、後して面 からわ・白綾着附・白大口・白地狩衣・白頭・劔・白地腰帯」との書入がある。

(4)は紙袋に一括して入っているもの。(3)の(2)と(2)が同封される。紙袋表書には「一管一調名寄書上」とある。

(4)は観世鉄之丞・金春八郎・金剛太夫・喜多六平太の各書上。

(2)には「江口 大夫独吟ニ而相勸申候。但、笛春日新太郎・一噌又六郎・森田初太郎之内ニ而相勸申候。尤年若ニ而者相勸不申候」との書入がある。

(2)は△蟻通△女郎花△龍田川辺△について。

(2)は△玉かつら△実方△一字題△雪月花△玉執△阿古屋松△太刀堀△山家秋△について。

(5)は仮に名付けた。三種一括して紙袋に入れてある。包書表には「弘化之丙午五月口伝書 観世鉄之丞」とある。

(4)は「竜田神楽留／葛城大和舞」、(2)は「白楽天波夜陀麻伝」、

約は「夕顔法味伝／采女美奈保之伝／誓願寺之佐走^{ササヰ}」についてである。

(8)の内容は△船弁慶△羽衣△山姥についてである。

(9)は一連のものと思われる。表紙は恐らく装束を切り取ったものを貼り合わせたものと思われる華麗な色彩の布覆表紙である。

(9)の内容(小見出し)は「番立之事／協能置鼓之事／協能之事／本流之事／半流之事／八頭之事／八頭替之事／(空白)／名乗開口之事／選擇之事／登置鼓之事／二段返之事／上巻之事／横朝長打切之事／句相之打切之事／程之打切之事／三足半之事／ス、ム足之事／勸進帳之事／願書之事／急調頭之事／定家之事」である。中には「八頭替之事…観世又二郎打被申候。昔、大倉平蔵相手之時打被申候由候。乍去、大倉道知被仰候者此出恵」「江口一声ノ内、昔樋口石見ト観世又二郎江口ヲ相手ニ成ハヤシ候付、石見流を打候付」「先年金春八左衛門道成寺いて、相手に成り申候」「協能之礼の事…右之通、宜政公へ中西分右衛門御物語被申候」と言つた能楽史上の大事なエピソードが書き記されている。特に「中西分右衛門」は寛永年中に改姓した、いわゆる手猿楽者虎屋のことであろう。

(10)の内容(小見出し)は「勸進帳之事／願書之事／起請文の事」で、「宝生流の方」とある。

(10)の内容を小見出しで拾うと「式三番之事／開口之事并名乗開口

ノ文／選擇脇之事／翁なし之事／本協能打様之事／八頭之事／修羅置鼓もの并登置鼓もの／江口本ノ平調返しもの／三足半の事ス、ム足ノ事／井筒位ノ序之事／甲ノ懸り之事／大返し之事／安宅大聖ノ舞之事／横ノ打切之事／二段返しのこと・懷中留之事／獅子濫船之事／鶯之事／白拍子之事／船弁慶前後伝／急之舞／次第之事／江口之事／今様と云秘事／頭屋能之事／一調小督／右同立田／右同母衣／右同菊之露／獅子坐敷之事／淡路留之事／野々宮火宅留之事／湯谷の留之事／右同くり并ニ膝行之事／野々宮柱の打切／融一式／頭取之事／翁なし置鼓之事／開口／礼脇／名乗頭／高砂舞の名／ナカシハツ頭／ハツ頭／半ナカシ／ハツ頭／二段返し／二段返し大鼓打様／當麻・海士・総角／海士海中留／大返し／大鼓打様／甲ノ掛」である。又、「開口之事 薩摩古伝、松平薩摩守殿(嶋津也) 御家来上村九兵衛と申者、大倉家晩公弟子也」「小鼓半流消之事 薩摩古伝」「修羅置鼓之事 薩摩古伝…天和三年亥五月七日ニ六歳殿(宜清公)ヨリ承候ハユリノ所ニテユリノ心ニ不打。ユリノ有所ヲ少シスゴシテ云々」とある(傍点筆者)ように「薩摩古伝」として、薩摩独自の伝承の存在があったことを確認し得る。「上村九兵衛」に関わつては「八頭之事 此打様ハ大蔵六蔵殿より上村七兵衛殿へ御相伝」とある。更に「江口平調返 牛尾親又次郎ハ…中西氏ノ被仰候ハ本ノ序ト平調返ノ分け有也」とあつて中西(虎屋)の名も

見える。全体が「半流八本流 又云、宗雅書ニ大倉七左エ門法名宗雅」とあるように小鼓大倉流の伝書き抜きである。「私ニ云先年阿部豊後守殿ニテ館在之」とあるのは確認し得ていないが、落主江戸在府中のことであろう。

②は奥書として「此書物当国ニ而者武田大膳大夫殿一人相伝旨より外有之間敷候。観世之大事を以他見有間舖候也。年号日付有。／宮王三郎／太夫在判／観世小次郎／元頼在判／大野右京進殿参」。「天文六丁酉年 巳野彦六虎貞判／橋原八重千世殿旨 宮増弥左衛門判」とある。内容を小見出しで拾うと「はやしの事注意書／音曲道歌／集鼓之和歌／集鼓風鼓之聞書事」とある。年号の明記された箇所を次に抜き書きする。「二月五日に今春座大蔵両座たちあひて、春日大夫とのゝ八隣屋にて両太夫召出、おきなを一番仕候なり。大夫との神前ニ而呂律を仕ることハへいしゆの御かくらの時、近衛殿其外摂家公家三十六人御参詣ありて、おんかくをなされ候。……永正八辛未年十二月九日 金春大夫／奏元安在判／榊鳳七十九才／宮増弥七殿」「……然る間、何にても候へ名人を定め、たうとり五人つゝの分くはへ候事ハ金春大蔵申合、衆徒の御中へ申上候て、さため候也。仍、為後日澄文如件。天文六丁酉年 巳野彦六／虎貞判／宮増弥左衛門判／橋原八重千世殿参」

③の内容は小見出しで記すと「舞序三段之事／神楽之事／付地ナ

ヨリ／一噌ニ而楽之事／中ノマイ之事、付イロヘカ、リ／男舞之事、付ハカ、リ／神舞之事／早舞之事／五段ノ時三段目より五段迄之事／カツコ之事／カケリ之事／マイハタラク之事／イノリ之事／ノット・アツサ・ガク／一セイ・シンノ一セイ之事／一セイ・本コシ・半コシ・コシ無之事／次第五段之事／次第三段之事／大ベシノ事／早箇之事／出羽ノ事／サカリハ之事／シテライ序之事／盤渉楽之事／五段神楽之事／翁の内替手／頭コシ・山姥・静・忠度・軍」とある。又、△道成寺△の項には「弘化三丙午五月五日書付也。秘／不_レ可_レ他見ヌ（花押）」とあり、△江口彩色伝△には「大夫観世左衛門・大鼓宝生勝次郎」とある。更に「簡作人目六」を記載するが、これは②とは同内容のものである。

④は包紙に入り、その表書には「一調手附」と墨書する。「江口・芭蕉・采女・吉野静・半菰・二人閑・雲林院・源氏供養・柏崎・三井寺・花かたみ・桜川・百万・班女・雲雀山・鳥追・蟬丸・籠太鼓・梅枝・玉葛・浮舟・三わ・小かう・俊成忠度・錦木・松虫・放下僧・笠のたん・東岸居士・熊坂・ぬへ・女郎花・老松・松風・土車・飛鳥川・弱法師・俊寛・歌占・勧進帳・鳥頭・橋弁慶・夜討曾我・雨月・定家」の各曲についての手付である。又、次のような書き入れが目につく。△飛鳥川△に「宝生新之丞流本ニテ写ス／右已上四十四番者大倉長右衛門奏宜徳以正本」天保十五甲辰年八月廿一

日写得一校畢（花押）」とある。△江口・吉野静△に「右二曲者以大倉長右衛門宣徳家本雖写天保十五年甲辰八月昔今又新二書改置也。弘化三丙午年七月十日（花押）」とある。△玉葛・浮舟△に「右一調一声、玉かつら・浮舟二番手配。天保十四癸寅年二月大倉長右衛門宣徳新ニ撰ヒ調之也。大倉家本書上ニハ此之」とある。△菊露△に「此一番、金剛右太夫以正本節付迄写置也。弘化三年丙午五月十七日申合」とある。又、「上宮太子・曙・嶋廻リ・東園下、宝生新之丞流」とあり、△俱利伽羅落△に、「此品松平美濃守齋侍朝臣先年依所望申合出ス。出来不宜シ故ニ記ナリ」とある。

⑨の内容を小見出しで記す。尚、△は不記載。「金春流国栖／出羽／流不打分 角田川／習事大様／岩船 金札／鉢木／菊／松風／翁出演心掛／六藏より習所口伝／調子加けん之事／流之事（大倉六藏）／絵馬／三輪／△／奈良大鳥井能図／阿漕／喜多流国栖／鳥頭／△／殺生石 白頭 弘化三年丙午五月朔日宝生大夫弥五郎より右三通書候て／松風／△黒塚 天保十二丑閏正月九日申合 大ツ、ミ葛野 笛一噌 大コ惣左エ門／杜若沢辺舞 宝生流重習申合 大鼓葛野 笛一噌 大コ惣右エ門 天保十五年十月廿一日申合也／△湯や三段 明和六己丑四月十六日御本丸中奥 大夫今春 大ツ、ミ今春 笛森田 天明四甲辰正月五日右御同所 大夫今春 大ツ、ミ今春 笛一噌／柏崎花送ニ付大返伝 重習 右大倉六藏家之大秘伝

也。弟子家ニハ不伝由、又替之手、富田伝六と大倉十郎仕。」。更に、挿紙が四枚あるが、それらは次の通りである。(イ)(162×174)「嘉永七年五月六日 観世鉄之丞書付 夕顔 遊行柳 弱法師」(ロ)(166×207)「嘉永五年九月廿一日 木賊 宝生弥五郎 大倉六藏 春日市右エ門 葛野」(ハ)(146×310)「真ノ序 乗楽心秘曲序」(ニ)(284×167)「喜多流三段舞手配図 弘化二年九月十一日紀州様ニ而湯谷シテ喜多六平太ワキ春藤源七郎大手役者九郎兵衛弟子・葛野小源太小大倉長右エ門 笛森田初太郎」

⑩の表紙のみのものは不詳。但、仕立の豪華な点は(9)△⑨と同等であるので、あるいは予備に作成したものであろうか。

⑪△⑩は一連のもので、大袋に一括して入れられてある。「重習一括」と仮称した。袋の表書は次の通りである。「天保十一庚子八月十八日袋作ル也。此袋之内ハ弟子ニ不免分也。天保十五年七月廿四日までは不残習相済候付、自筆書面如此一袋ニ入也（花押）△一、宝生座関寺小町／二ノ上、観世流之物 白噺子暫納／二ノ下、白はやし／三、関寺小町／四、大蔵流船弁慶／五、置鼓／六、謡なし／七、龍田川辺／八、恋重荷／九、金剛流三輪・鷗鷗小町・雪・機法・落葉・千寿・羽衣・ボサノカケリ・砧・遊行柳・小鼓皆伝」。そのうち「二ノ上」は別項目に立ててあるが、実際は「一」に続く同一書に記載されたものであるので、あえて通し番号は別扱いとはし

なかった。又、^{〇〇}は更に別の袋に一括して入れられてあるものである。

^〇で年号の明らかなものを抜き書きすると次の通りである。

「天保十年亥九月、大倉宣徳所調本、此本有書改又故。今又同十一年子八月宝生大夫・一噌又六郎・葛野九郎兵衛申合、所調手配本也。天保十一年子九月九日調之。」「右従一噌又六郎、天保十一年八月廿五日所出、笛賦如之書記也。」「誓納二付、文政十亥年二月申合処左ノ如ク。」

^〇の小見出しは「関寺小町拍子之事／金春流ハ／関寺小町舞唱歌一噌／初段／三段目休息有之節」である。

^〇は更に一括して紙袋の中に入れてある。紙袋の表書には五 置つゝ井五節打分 一折／六 うたひなし 一包／七 立田川へ 一折」とある。

^〇の内容（小見出し）は次の通り。「真 置鼓／草 修羅置鼓 朝長儀法／行 葛置鼓／花重 四番目置鼓／五節置鼓打分之習秘事（春 初音・上巳・桃花・端午 葛蒲・七夕・重陽 菊重・冬 時雨トモ）」

^〇の奥書として次のような館組を記す。「天保十五年甲辰九月廿一日、三番目ニ恋重荷人数。仕手 観世鉄之丞、シテツレ 二十四五歳、脇 宝生新之丞、ワキ一人ナリ。笛 一噌又六郎、大鼓 葛

野九郎兵衛、大コ 金春又二郎、狂言 鷺仁右衛門。」

^〇は紙袋に入れてある。その袋の表書には「重習 雪手附 金剛流」とある。又、「雪 右近・高安彦太郎・ワキ連二人・高安三太郎・貞光安兵衛／右之者申合仕候。尤笛之儀者朔之助」と記した紙片一葉が挿入されてある。

^〇は朝長儀法に関すること。一括して入れてある袋の表書には「儀法之大事 喪之習等之内 三通」とある。又、(4)の奥書には次のような館組が記されている。「金春八右衛門・笛 森田貞光朔之助・大鼓 高安三太郎・太コ 今春又次郎・間鷺仁右衛門 申合手配／嘉永七甲寅年正月二十二日認。」

^〇の奥書には次のような館組を記す。「弘化三丙午十二月廿六日再建以後初而有之人數組／落葉 采色伝 武田・安屋太郎、大ツ、ミ 葛野九郎兵衛、笛 朝之助、狂言 鷺仁右衛門／右小鼓打候仕手、松玉美濃守也。」

^〇は紙袋に入っている。紙袋の表書は「重習 弟子之不可伝品 千寿 中ノ打切之習并由緒認 二通 但別紙一調之節心得一通」となっている。本来、二通であつたらしい。奥書は「右者寛文六年十二月七日於御本丸御館之節、高祖父長右衛門、千寿被仰付候節、右替ノ手仕候所、御意ニ叶候御旨、酒井雅楽頭殿上意被為在御褒詞云々／元禄六酉年三月十二日紫調御免。同七戌年八月十五日於

奥、鼓預り、浅黄御調御領二色相用イ候仰付。同九年十月六日於御前上意之祝、其方名六藏江讓申様ニ而仰付。六藏義長右エ門ニ成り、長右衛門江喜々御一字拝領。喜右衛門与奉蒙、上意難有改名仕候。」とある。すなわち、大倉長右エ門改名のいきさつがよくわかる。

③を一括して入れてある紙袋表書は「觀世流習物明細書 極秘伝書（不明）改、鉄之丞」とある。

④の紙袋表書には「ボサノカケリ（乏佐走）御手配付」とある。

⑤は能組で、内容は「嘉永六癸丑年十一月六日、乏佐走／シテ 觀世鉄之丞・大鼓 葛野九郎兵エ・太コ 觀世左吉・笛 貞光朝之助・ワキ 宝生喜勢太郎 病氣ニテ代間 覽仁右エ門／弘久（花押）」とある。

⑥の奥書は能組で「安政五戊午年五月十八日、於金剛大夫宅初而申合取様控、小ツ、ミ 大倉六藏・大ツ、ミ 葛野三太郎・笛 貞光朝之助・太コ（記入ナシ）」とある。又、別に「大鼓手配」と「出端打出し」の挿入紙各一枚がある。

⑦は包紙にくるまれる。又、能組「シテ觀世鉄之丞・ワキ 宝生直五郎・笛 森田流・大高安三太郎・太 觀世左吉」の記載が見られる。

⑧の二枚それぞれ包紙にくるまれる。

⑨は一括して紙袋に入れてある。紙袋の表書には「小鼓／一、式三番再包／為初心之覚書 一冊 嘉永／一、鼓習目六、奥書あり、

一冊／一、弓矢立合手配 一冊」とある。

⑩は包紙にくるまれ、それには「頭取脇鼓ともに式三番 一冊 但、服着之類有之。人々聞不可事。」とある。所々、朱入り。

⑪は「四座ノ太夫ノ事／金春ノ本名／四座ノ大夫ノ勸進能／翁」等多岐に亘り、教養事項を列記する。

⑫は紙袋にあり、その表書には「習目録写 但、簡添状写 一冊」とある。小見出しによる内容は次の通りである。「脇能之事（大藏六藏 文化七年午六月十五日）／頭取つゝみ 置鼓 半開口 礼脇之事（文化七年午七月）／歌占・放下僧・弱法師（文化七年午七月）／角田川・雨月（文化七年午十一月）／安宅 勸進帳 昭君（文化八年未四月）／一調鼓（文化八年未四月）／井筒 段 甲ノ掛り・当麻・海人 二段返 懷中之留・蟻通（文化九申五月）／高安峰作小鼓筒／文化八年未後二月、大藏六藏宜徳（花押）」。

⑬の序文は「大和国添上郡春日御神事ニテ開口より打出切迄也。又、將軍家御諷初ニテ前ナシ」云々とある。

⑭は紙袋に入れられてあり、その表書には「小包覺聞書留 四冊」とある。四冊とあるのは不詳。見出しによる内容は次の通り。「八島切／自然居士編之段／女郎花切／江口切／夕顔山之端替手／湯谷切／小督切／自然居士編之段替手／自然居士切／雲雀山切替手／阿古屋松／下掛一字題／実方／身延下カ、リ／巴切替手／觀世流一字

額／鼓の漣／松風クセノ切迄／あふむクセよりキリ／砧前クセ新之
丞流／千手習切／木賊／角田川／藤渡／定家／野々宮」。又、これ
らの曲について「右三十章者是迄不用ニ調品柄ニ候へ共、嘉永
四年辛亥六月十二日（日曜保宿）大倉父子与相談之上記之也」とあ
る。「三十章」とあるも実際には二十六章で、二十七、三十章分は
空白である。更に、年月明記の分として次のように記す。「あふむ
小町 嘉永四年亥十月廿五日、右一番サシ・クセハ新ニ調ニ撰。

大奥において、大倉長右衛門分口伝。更、中ニ付相留也。」「千手
習打切 右重習打切ニテ一調之料ニ嘉永五壬子又二月十日、大倉
六藏ト談置控也。弟子ニハ不伝品。又、二月十一日書留置。」

④の見出しによる内容は次の通り。「三井寺／江口／芭蕉／班女
／木賊／二人静／桜川／雲林院／花筐／蟬丸／柏崎／百万／鳥追舟
／土車／籠太鼓／笠之段／放下僧／女郎花／蟻通／松虫／歌占／東
岸居士／流シ／ハツ頭／本之越／竹生島／習之越／半流シ／大返し
／式段返シ／觀世流二段返シハ／平調返り／鷗鷺小町／半越ノ習
（葛流の謂也）／半開口／礼ワキ／三番目／花／正／松かせの習の
越／頭越／大筋替／狂女之越／静力成越／野々宮の越／夕かをの越
／三番（伯母捨・鷗鷺・木賊）越・半越の替／角田河金春習の鐘の
拍子／楊貴妃ノトメ／野々宮火宅トメ／野宮トメ／残るトメ／道明
寺笏拍子／藤戸のトメ／夕顔／半薔／定家／蟻通／ワキ能打様／巻

絹／熊野／シツカウニ色有／笠之段のトメ／放下僧ノトメ／車僧ノ
トメ／橘弁慶ノトメ／老松／紅梅／天女」

④の小見出しは「序ノ舞／男舞／ガクカ／リ／カグラ」である。

④の小見出しは「基本の手（三ッ地・片地等）／序舞三段／同五
段／中舞三段／同五段／男舞三段／同五段／早舞三段／早舞五段／
海人序／神舞／神楽／カッコ金春／カッコ／楽、富士太鼓／楽、打
コミ打返」である。

④は百番綴版本謡本の忠実な敷写し本に、習得したものについて
は朱で印をつけたもの。

④は「熊野／三段之舞／膝行／膝迄」等、二十五曲について。

④は④とともに所々朱入り。「藤渡／隅田川、金春草也」につい
てである。

④は「宝生流之トキ手配／乱拍子ヨリマイマテ」についてであ
る。朱で「・ヤ・ハ」等と記す。

④は「神楽大倉之通舞ニナリ」等とある。

④は奥書に「大倉流習事一子相伝秘事口伝不残相認差上申候。此
外ニ習与申儀無御座候。依御所望奥書仍如件。文化九申九月日、大
倉稔宣徳 角印三」とあり、更に「一子相伝品々從古來弟子ニ不免
候へ共、関寺小町斗リハ小鼓ハ池田、大鼓ハ大倉ニ右衛門両家之外
斗之由。天保十五年甲辰七月廿四日、大倉宣徳申之也。」とある。

「差上申候」とか「依御所望」と言うように敬語が使われていることからして、九世宗家喜右衛宣徳（嘉永七年、八十歳没）が藩主の為に奉ったものであらう。

64は紙袋に入っており、その表書には「嘉永四辛亥年五月十八、大倉宜澄ヨリ来ル／大倉流大鼓一調一管一音目六／少担書拔一打添一折」とある。小見出しによる内容は次の通り。「大倉一調目錄（以下曲名列記）／外／別段重キ一調／一調一音／一調一管／外ニ南都住大鼓 大倉長右衛門・大倉二右衛門・同六十郎」。

65は紙袋入り、表書「岡山様江之控書 大倉長右衛門」。

史料

66についてはどの文書に入っていたのか不明。代替の人名か、単なる名刺かも不明である。

67については興味深いので以下全文記す。「（初日分ナシ）二日目／老松 脇出、謡成丈親仕候。真ノ序五段本式之処、紅梅天女ノ式法ニテ三段ノ舞ニ仕候。但、間語成丈短ク仕候。金春太夫／簾脇次第抜。名乗ワキニ仕。シテ次第第一段ニテ下歌上歌抜。惣体、サリ相勤申候。宝生石之助／東北 脇次第一段ニ仕。惣体、位進メテ後、シテ一声・クサリ数減ニ、クリ・サシ・曲相除キ、序ノ舞三段ニ相勤申候。但、間成丈短ク仕候。観世太夫／小鍛冶 クリ・サシ除キ、相勤申候。惣体、位ヲ進メ相勤申候。金剛太夫／祝言・岩

船 惣体、位進メ、ワキ次第第一段ニ仕候。観世鉄之丞／三日目／弓八幡 惣体、進之、相勤申候。宝生石之助／兼平 脇ノ出一段。謡成丈短ク仕候。シテノ出、一セイ前後、其二段本式之処、前後、其一段ニ仕候。中入前、初同ノ謡済、シテ・ワキト懸合ノ詞除キ、直ニさゝ波やみなれさほのと謡仕候。後シテ謡之内、サシ声ノ留進ニテ曲ノ謡、不残抜キ、実いたわしき物語と謡仕候。但、間語成丈短ク仕候。金春朋之助／熊野 連次第一段ニテ、詞斗ニテ道行キ除キ、直ニ着セリフ唄。ヤ（ヲ）ハ・クリ・サシ・曲ヲ除キ、舞三段相勤申候。惣体、位相進申候。金剛太夫／葵上 惣体、位打返シ、シテ一声ノゾキ、連ノ謡ノ内ニ出、一声謡申候。サシ・下歌・上歌共除キ申候。観世太夫／祝言・呉服 次第一段ニ仕。惣体、進ミ相勤申候。尤、祝言ニ御座候得バ、舞ハ三段ニ而相勤申候。宝生重次郎／四日目／加茂 右ハ惣体、位ヲ進メ候而、已ニ御座候。金剛太夫／忠則 脇ノ出、次第二御座候處、名乗脇ニ仕候。海士ノ呼声ひまなきに、しはなく千鳥ねをすこき。此間、文句抜。又、是成様者、或人のシテ、行群て木の下蔭を宿とせハ、此間文句抜。花や今宵のあるしならましと詠めし人ハ薩摩の守。中入後、申さん為に魂魄に移り替りて来たり。此間、文句抜。御身ハ御内ニありし人なれば夢物語申に須磨の浦風も心せよ。是よりクリ・サシ・切、前後ノ文句除。去程に一ノ谷の合戦。大蔵庄左衛門／江口 次第一段。後一セ

イ一段。世を渡る一ふしを謡ていさや遊はん。序・サシ・曲ヌキ。直ニ舞ニ仕候。序・舞三段。惣体、出入口、間迄成丈差略仕候。喜多六平太ノ是界。惣体、位進メ、次第一段ニ仕。クリ・サシ・曲除キ、後、ワキ一セイ、クサリ数相減。後シテ、大ベシ一段ニテ出。イロエ無段ニ仕。短ク相勤申候。但、間成丈短ク仕候。観世鉄之丞ノ乱。ワキ名乗、シテ成丈謡詰申候。シテノ出、下リハ三段本式ニ候処、一段ニ仕候。乱ノ舞七段、本式之処五段ニ仕候。金春太夫。又、二枚の別紙がある。別紙(イ) (II×III) は「鞍馬天狗、恋の増らん悔しさよ、松風・花の跡とひてト続く。後一セイ越なし。一段、大ベシ、一段、外替る事なし。田村、ワキ名乗ニ成。シテ一セイノ謡、切ニ而直ニワキより言葉守るも急なるへしト直ニロンギ。後一セイ一段。サシ・クセ抜。去る程ニ山河ト成ル外替る事なし」とあり、別紙(ロ) (III×III) は「高砂。一体、位早く、舞三段跡より別而早く、羽衣・天人の五姿も目の前に見へてあましましや。ワキいかに申候。御姿を見申せは、舞三段ニ而あかりニ東遊びの地謡ニなる」とある。以上は、『徳川実紀』(国史大系)によっても確かめ得る。すなわち、初日(十一月廿五日)は、翁(松竹風流)・高砂・田村・羽衣・鞍馬天狗、並びに狂言では、いくる・金札の能組であるとなる。又、狂言の曲名は記していないが、それも、二日め(十二月六日)萩大名・福の神、三日め(同九日)今参・こんくわる、四

日め(同十一日)二人袴・花折が演じられたことがわかる。それにしても、随分と省略の多い、悪く言えば手抜きの能であったことに興味をそえられる。現在でも時間や演者の都合で、ある箇所が省略されることはある。しかし、將軍宣下(十三代家貞)能と言う公式の舞台で、クリ・サシ・クセと言ったいわば能の勘所といった所全てを省略して、果たして能そのものが成り立ち得たのだろうかとの危惧すら抱かされる。宣下能全てがそうとは言えないが、このような形式ばかりの面もあったことを示す良い証左となろう。

鶴は小鼓胴作者の由緒一覽表である。古折居(享祿年代)から金十郎(元禄頃)まで二十六名について記してあるが、必ずしも年代順になっている訳ではない。似たような内容では法政大学能楽研究所観世新九郎家文書の「鼓筒名鈔」等がある。

鶴は冒頭題「八嶋」とあるが、「右者音曲蘆船之曲ニ而、私先祖桃井播磨守直常ト申者」の書き出しで始まるごとく、幸若丸の事蹟についてである。これと特定する典拠はないが、様々の幸若伝説をとり合せたもののようである。奥は「十月 幸若小八郎・同左門、助音 同紀十郎・五二郎・友十郎」となっている。幸若舞の資料についてはこの他にもあって良さそうだが、この一点のみである。

版 本

鶴はいわゆる明和改正謡本で著名な観世元章の印行したもの。

特に①は、他本としては法政大学の鴻山文庫蔵本の三本と、同じく観世新九郎家文書の本、計四本で伝本極めて稀である。そのうち鴻山文庫蔵本は、幸流小鼓方宝生座付楠田重之と、京五軒家の岩井直恒・園家に伝わっていたことが判明している。すなわち『習道書』の元章配りものとしての性格を考える上に貴重な一本がつけ加わったと言えるであろう。

④は宋で太鼓の直シが入る。又、翁の囃子方手付がある。

⑤は計百七十曲に小鼓習いの印（○小習部、●大習部）がある。

小鼓の習覚書として使用したもの。又、コンハル方云々」「飛鳥川清水流大倉流斗」等の書き入れが散見する。

⑥は外題はないが、逆鉾・橘・代主・綾鼓・恋重荷・求塚・吉野天人・初雪・砧・愛后空也・落葉・水無瀬・木賊・合甫・第六天・江之島・藤・飛鳥川である。それぞれの曲について宋で手付の書き入れがある。また△橘▽には「大蔵太夫方ニ而昔相勤候。当時は先相勤不申候。其外ニ無御座候」との書き込みがある。

⑦はクセ「正成其時はだの護を取出し」以降キリの部分まで。

能 組

⑧（享保二十年五月十一日付並寛政七年五月十一日付能組） 享保廿乙卯年五月十一日於御本丸、天下御一統千支相当祝能／御能組／弓八幡シテ八左衛門ワキ新次郎大九郎兵衛小五郎次郎太惣次郎重長

命清左衛門／田村シテ宝生太夫ワキ茂十郎大市郎兵衛小清五郎笛寺井久八郎／熊野シテ観世太夫ワキ久右衛門大此京三郎右衛門小此京新九郎笛市右衛門／船弁慶シテ七太夫ワキ源七郎大彦三郎小六藏太観世文十郎笛貞光安兵衛／融シテ十太夫ワキ新之丞大三太郎小清次郎太観世権八笛貞光小八郎／麻生 弥右衛門／唐角力 仁右衛門／寛政七乙卯年五月十一日同断／御能組／弓八幡シテ金剛太夫ワキ彦太郎／大九郎兵衛小此京六藏太左吉笛熊八郎／田村シテ金剛熊之助ワキ彦十郎 太当切テ三郎四郎小幸万吉笛清基次郎／湯谷シテ観世太夫ワキ久右衛門大三太郎小新九郎笛庄兵衛／船弁慶シテ七太夫ワキ万作大勘五郎小大倉権三郎太観世権八笛小八郎／融シテ宝生太夫ワキ新之丞大市郎兵衛小大倉喜左衛門太惣右衛門 笛又六郎／麻生 八右衛門／唐相撲

⑨（安政二年五月十一日付能組） 五月十一日乙卯千支御祝儀／御能組／弓八幡シテ六平太ワキ権之助大助五郎小六藏太左吉笛幸太郎／田村シテ庄左衛門ワキ彦十郎大鍊三郎小淑太郎笛甚兵衛／湯谷シテ観世太夫ワキ金五郎大九郎兵衛小五郎次郎 笛初太郎／船弁慶シテ宝生太夫ワキ源七郎大三太郎小新九郎太熊次郎笛市右衛門／融シテ金剛太夫ワキ丑之進大三郎四郎小政次郎太弥兵衛 笛要三郎／麻生 八右衛門／唐相撲 権之丞

⑩明治十六年六月二日付三宅庄市主催芝公園狂言組 紙包袋（紙組あり）「番組 三宅庄市」 239×151 狂言組（印刷）（内容）来

ル六月二日芝公園地於能樂堂／始り午前十一時／晴雨不論／仕舞狂言 催主下／番町三拾五番地三宅庄市／蚊相撲 三宅惣三郎・同藤造／金岡 山脇元清／苅葉練 鷺權之丞／仕舞／桜川 山本直行／鶴子安千代松／田村 山本直良／養老 宝生豊喜／比久貞 野村與作／咲花 北村紉／釣狐 三宅庄市／吹取 鬼島寿作・木村定泰／仕舞／吉野靜 豊喜／芦刈 直行／小歌 千代松／千引 直良／悪太郎 山本東次郎／神鳴 服部彦七・森山淨夢／闇罪人 大倉八郎／以上

明治十七年十一月十八日付能組 御能組 申旧十一月十八日／呉服シテ藤崎健左衛門ツレ土持綱之ヲキ小幡勇次郎ワキツレ岡積與兵衛・森八郎次大有馬辰次郎小小浜弥兵衛太木場増太笛松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／忠信シテ迫田猛彦ツレ土持綱之・有馬岩七・小幡勇次郎ワキ岡積與兵衛大前田清右衛門小小浜弥兵衛笛山口新十郎／半部シテ竹崎伸之丞ワキ小幡勇次郎大有馬辰次郎小本場増太笛松元清右衛門アイ園分八郎左衛門／花筐シテ小幡壮八郎ツレ有馬岩七・迫田猛彦ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛大前田清右衛門小小浜弥兵衛笛山口新十郎／鶏籠田シテ外山真介ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・山元正太郎・田原秀之助大有馬辰次郎小小浜弥兵衛太顯川嘉七笛山口新十郎アイ前原七郎／大黒連歌 市来嘉兵衛・真川勢兵衛・大重正兵衛・園分八郎左衛門／禁野 前原七郎・園分八郎左衛門・尾上祐左衛門

／隠笠 大重正兵衛・市来嘉兵衛・真川勢兵衛／竹生嶋参り 園分八郎左衛門・前原七郎／千鳥 市来・大重・真川／（別紙）一調 春日龍神 木場増太

明治十七年十一月二十四日付能組 御能組／初雪シテ藤崎健左衛門ツレ山元正太郎・田原善之助・宮元吉次郎大前田清右衛門小小浜弥兵衛太顯川嘉七笛山口新十郎アイ尾上祐左衛門／知章シテ迫田猛彦ワキ岡積與兵衛大有馬辰次郎小小浜弥兵衛笛土持綱之アイ市来嘉兵衛／野の宮シテ小幡壮八郎ワキ岡積與兵衛大前田清右衛門小小浜弥兵衛笛松元清右衛門ア、前原七郎／松虫シテ竹崎伸之丞ツレ迫田猛彦ワキ小幡勇次郎大有馬辰次郎小小浜弥兵衛笛山口新十郎アイ前原七郎／当麻シテ外山真介ツレ藤崎健左衛門ワキ森八郎次大前田清右衛門小小浜弥兵衛太木場増太笛松元清右衛門アイ園分八郎左衛門／鞍馬参り 園分八郎左衛門・尾上祐左衛門／泣聲 真川勢兵衛・市来嘉兵衛・大重正兵衛／磁石 前原七郎・園分八郎左衛門・尾上祐左衛門／早漆 市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛／（別紙）是界シテ迫田猛彦ツレ有馬岩七ワキ小幡勇次郎大有馬辰次郎小本場増太太顯川嘉七笛松元清右衛門アイ尾上祐左衛門

明治十八年一月二十四日付能組 （表端書）西正月廿四日新三十日（内容）御能組／鶏籠田シテ外山真介ツレ迫田猛彦・宮元吉次郎・福永新三・山元正太郎・田原善之助ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵

衛大前田清右衛門小小浜弥兵衛太池之上權四郎 笛松元清右衛門アイ尾
上祐左衛門／娘シテ迫田猛彦ワキ池田休左衛門大前田清右衛門小小浜
弥兵衛笛山口新十郎アイ尾上祐左衛門／遊行柳シテ小幡壮八郎ワキ森
八郎次ワキツレ小幡勇次郎大前田清右衛門小小浜弥兵衛太顯川嘉七 笛
松元清右衛門アイ市来嘉兵衛／加茂物狂シテ竹崎仲之丞ワキ小幡勇次
郎大前田清右衛門小小浜弥兵衛笛山口新十郎／八嶋シテ藤崎健左衛門
ワキ岡積與兵衛大前田清右衛門小小浜弥兵衛笛土持綱之／松櫟 市来
嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛／伊呂波 前原七郎・國分八郎左
衛門／伯母か酒 市来嘉兵衛・真川勢兵衛／鬼瓦 國分八郎左衛門
・尾上祐左衛門／八嶋間那須 七郎／（別紙）八嶋仕手連 大重彦
左衛門

明治十八年三月二十四日付能組 （裏端書）西三月廿四日新五
月八日（内容）御能組／嵐山シテ藤崎健左衛門ツレ迫田猛彦・有馬岩
七・大重彦左衛門ワキ池田休左衛門ワキツレ小幡勇次郎・岡積與兵衛
大小幡壮八郎小小浜弥兵衛太木場増太 笛松元清右衛門／俊成忠度シテ
迫田猛彦ツレ小幡勇次郎・有馬岩七ワキ岡積與兵衛大小幡壮八郎小小
浜弥兵衛笛土持綱之／卒都婆小町シテ小幡壮八郎ワキ森八郎次ワキツレ
小幡勇次郎大外山真介小小浜弥兵衛笛山口新十郎／西行桜シテ外山真
介ワキ森八郎次ツレ小幡勇次郎・岡積與兵衛太木場増太小小浜弥兵衛
太顯川嘉七 笛松元清右衛門アイ前原七郎／檀風シテ竹崎仲之丞ワキ森八

郎次ワキツレ岡積與兵衛・土持綱之・有馬岩七 大前田清右衛門小迫田
猛彦太池之上權四郎 笛山口新十郎アイ前原七郎・國分八郎左衛門／目
近 前原七郎・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門・大重正兵衛／宝瘤
取 市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛・尾上祐左衛門・國分八
郎左衛門／泣尼 國分八郎左衛門・前原七郎・尾上祐左衛門・尾上
慶二・有馬岩七・大重正兵衛／呂連 大重正兵衛・市来嘉兵衛・真
川勢兵衛／嵐山間猿聲 尾上祐左衛門・尾上慶二・大重正兵衛・國
分八郎左衛門・前原七郎／（別紙二）一、目近 四、宝ノ瘤取 三、
泣尼 二、呂連／（別紙二）嵐山太鼓 木場増太

明治十八年四月八日付能組 （裏端書）旧西四月八日（内容）
皇帝シテ迫田猛彦ツレ土持綱之・有馬岩七ワキ小幡勇次郎ワキツレ岡積
與兵衛大前田清右衛門小小浜弥兵衛太顯川嘉七 笛松元清右衛門アイ國
分八郎左衛門／弱法師シテ小幡壮八郎ワキ森八郎次太木場増太小小浜
弥兵衛笛山口新十郎アイ前原七郎／杜若シテ竹崎仲之丞ワキ岡積與兵
衛大外山真介小小浜弥兵衛太木場増太 笛松元清右衛門／柏崎シテ外山
真介ツレ福永新三ワキ森八郎次ワキツレ小幡勇次郎大小幡壮八郎小小浜
弥兵衛笛山口新十郎／松山鏡シテ竹崎仲之丞ツレ有馬岩七・土持綱之
ワキ森八郎次大前田清右衛門小迫田猛彦太木場増太 笛山口新十郎／常
陸帶シテ迫田猛彦ツレ有馬岩七ワキ小幡勇次郎大外山真介小小浜弥兵
衛太顯川嘉七 笛土持綱之アイ尾上祐左衛門・國分八郎左衛門・前原七

左衛門

郎／相合烏帽子 市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛／竹之子
 前原七郎・尾上祐左衛門・園分八郎左衛門／惡太郎 市来嘉兵衛・
 真川勢兵衛・大重正兵衛／墨塗 園分八郎左衛門・尾上祐左衛門・
 前原七郎／（別紙）柏崎跡／露シ市来嘉兵衛（別紙二）三番目／
 松山鏡／杜若／柏崎／常陸袴

明治十八年四月二十四日付能組 御能組／鞍馬天狗シテ藤崎健
 左衛門ツレ有馬岩七・尾上慶ニラキ小幡勇次郎大木場増太小迫田猛彦
 太額川嘉七番山口新十郎アイ園分八郎左衛門・市来嘉兵衛／浮舟シテ
 迫田猛彦ワキ岡積與兵衛大小幡壯八郎小小浜弥兵衛笛土持綱之アイ園
 分八郎左衛門／梅枝シテ小幡壯八郎ワキ森八郎次大前田清右衛門小小
 濱弥兵衛笛松元清右衛門アイ前原七郎／雨月シテ外山真介ツレ大重彦
 左衛門ワキ池田休左衛門大前田清右衛門小小濱弥兵衛太木場増太笛松
 元清右衛門アイ尾上祐左衛門／籠太鼓シテ竹崎仲之丞ワキ森八郎次大
 外山真介小迫田猛彦笛土持綱之アイ前原七郎／船弁殿シテ迫田猛彦ツレ
 有馬岩七ワキ小幡勇次郎ワキツレ岡積與兵衛大外山真介小小濱弥兵衛
 太木場増太笛山口新十郎アイ尾上祐左衛門／蛸 尾上祐左衛門・園分
 八郎左衛門・大重正兵衛／骨皮 大重正兵衛・市来嘉兵衛・園分八
 郎左衛門・尾上祐左衛門・真川勢兵衛／三人片輪 前原七郎・大重
 正兵衛・園分八郎左衛門・尾上祐左衛門／座禪 市来嘉兵衛・真川
 勢兵衛・大重正兵衛／子盗人 園分八郎左衛門・前原七郎・尾上祐

明治十八年五月十六日付能組 （表端書）旧西五月十六日（表

書）御能組／阿漕シテ小幡壯八郎ワキ小幡勇次郎大前田清右衛門小小
 濱弥兵衛太額川嘉七笛土持綱之アイ前原七郎／関原與市シテ迫田猛彦
 ワキ岡積與兵衛ワキツレ有馬岩七・大重彦左衛門大小幡壯八郎小小濱
 弥兵衛笛山口新十郎／三井寺シテ竹崎仲之丞シテツレ有馬岩七ワキ森八
 郎次ワキツレ岡積與兵衛大前田清右衛門小小濱弥兵衛笛土持綱之アイ園
 分八郎左衛門・大重正兵衛／扱待シテ小幡壯八郎シテツレ岡積與兵衛
 ・有馬岩七・小幡勇次郎・迫田猛彦ワキ森八郎次ワキツレ真川勢兵衛
 ・大重彦左衛門・尾上祐左衛門・土持綱之太木場増太小小濱弥兵衛
 笛山口新十郎／黒塚シテ藤崎健左衛門ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛
 大外山真介小迫田猛彦太木場増太笛松元清右衛門アイ園分八郎左衛門
 ／野守シテ外山真介ワキ小幡勇次郎大前田清右衛門小小濱弥兵衛太木
 場増太笛松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／賽の目 尾上祐左衛門・
 前原七郎・園分八郎左衛門・大重正兵衛・真川勢兵衛・市来嘉兵衛
 ／寝音曲 市来嘉兵衛・真川勢兵衛／鈍太郎 市来嘉兵衛・大重正
 兵衛・真川勢兵衛／鬼の継子 前原七郎・尾上祐左衛門／花折新発
 知 市来嘉兵衛・真川勢兵衛・大重正兵衛・惣人数

明治十八年五月二十五日付能組 （裏端書）西年 旧五月廿五
 日（表書）御能組／金札シテ藤崎健左衛門ワキ小幡勇次郎大木場増太

小迫田猛彦・太額川嘉七・笛山口新十郎・アイ前原七郎／吉野靜シテ迫田猛彦ヲキ岡積與兵衛・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・笛山口新十郎・アイ国分八郎・左衛門・尾上祐左衛門／東岸居士シテ小幡壮八郎・ワキ森八郎・次大前田清右衛門・小迫田猛彦・笛松元清右衛門・アイ国分八郎・左衛門／千手シテ小幡壮八郎・シテツレ迫田猛彦・ワキ岡積與兵衛・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・笛松元清右衛門／葵上シテ外山真介・ツレ迫田猛彦・ワキ森八郎・次ワキツレ大重彦・左衛門・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・太木場増太・笛土持綱之・アイ大重正兵衛／小銀治シテ迫田猛彦・ワキ小幡勇次郎・ワキツレ岡積與兵衛・大小幡壮八郎・小小濱弥兵衛・太木場増太・笛山口新十郎・アイ尾上祐左衛門／福の神・市来嘉兵衛・真川勢兵衛・大重正兵衛／栗阿弥・前原七郎・国分八郎・左衛門・尾上祐左衛門／音葉練・真川勢兵衛・大重正兵衛／因幡堂・市来嘉兵衛・真川勢兵衛／千切木・国分八郎・左衛門・惣人数／以上／（別紙）伯菴・国分八郎・左衛門・尾上祐左衛門・前原七郎

（明治十八年五月二十九日付館組（裏端書）西旧五月廿九日（表書）御能組／調伏曾我シテ竹崎仲之丞・ツレ有馬岩七・小幡勇次郎・迫田猛彦・大重彦・左衛門・真川勢兵衛・ワキ森八郎・次ワキツレ岡積與兵衛・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・太木場増太・笛山口新十郎・アイ国分八郎・左衛門／元服曾我シテ迫田猛彦・ツレ小幡勇次郎・有馬岩七・ワキ森八郎・次大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・笛松元清右衛門・アイ国分八郎・左衛門／小

袖曾我シテ小幡壮八郎・ツレ土持綱之・有馬岩七・岡積與兵衛・大前田清右衛門・小迫田猛彦・笛山口新十郎／夜討曾我シテ迫田猛彦・ツレ土持綱之・有馬岩七・小幡勇次郎・岡積與兵衛・大重彦・左衛門・太木場増太・小小濱弥兵衛・笛松元清右衛門／禪師曾我シテ土持綱之・ツレ有馬岩七・大重彦・左衛門・岡積與兵衛・ワキ森八郎・次大小幡壮八郎・小小濱弥兵衛・太額川嘉七・笛山口新十郎・アイ尾上祐左衛門／シテ外山真介・ワキ小幡勇次郎・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・笛土持綱之・アイ前原七郎／シテ藤崎健左衛門・ワキ岡積與兵衛・大外山真介・小迫田猛彦・太木場増太・笛松元清右衛門・アイ前原七郎／斯好聲・大重正兵衛・惣人数／川原太郎・国分八郎・左衛門・惣人数／口真似・大重正兵衛・市来嘉兵衛・真川勢兵衛／太刀奪・前原七郎・国分八郎・左衛門・尾上祐左衛門／花折新発知・市来嘉兵衛・惣人数／尾上祐左衛門・前原七郎／真川勢兵衛・市来嘉兵衛・大重正兵衛／夜討曾我間・大藤内・市来嘉兵衛・大重正兵衛／（別紙一）禪師曾我・仕手土持綱之代り・竹崎仲之丞・脇連・林勘次郎（別紙二）旧曆五月廿八日御能組・調伏曾我・元服曾我・小袖曾我・夜討曾我・禪師曾我・玉葛・春日龍神・斯好聲・川原太郎・口真似・太刀奪・附子・土筆

（明治十八年八月二十四日付館組（裏端書）西旧八月廿四日（表書）御能組／氷室シテ岩重清憲・ツレ小幡勇次郎・尾上慶二・ワキ池田休左衛門・ワキツレ大重彦・左衛門・岡積與兵衛・大外山真介・小小幡壮八郎・太

木場増太・笛山口新十郎・アイ前原七郎・國分八郎左衛門／雲雀山シテ小幡壯八郎ツレ大庭席・真川勢兵衛ワキ小幡勇次郎ワキツレ大重彦左衛門・太前田清右衛門・小木場増太・笛松元清右衛門・アイ尾上祐左衛門・前原七郎／自然居士シテ外山真介ツレ藤崎直ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・大前田清右衛門・小木場増太・笛松元清右衛門・アイ前原七郎／夜討曾我シテ竹崎仲之丞ツレ山田嘉之助・森静枝・岡積與兵衛・真川勢兵衛・大重彦左衛門・尾上慶二・小幡勇次郎・太前田清右衛門・小市来平太・笛松元清右衛門／舍利シテ藤崎健左衛門ツレ尾上慶二ワキ岡積與兵衛・大木場増太・小市来平太・太願川嘉七・笛山口新十郎・アイ尾上祐左衛門／蚊角力・國分八郎左衛門・真川勢兵衛・木場増太／察化・尾上祐左衛門・國分八郎左衛門・前原七郎／悪太郎・前原七郎・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門／御茶之水・前原七郎・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門／夜討曾我間・大藤内・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門

御明治十八年九月二十五日付能組 (衷端書) 酉九月廿五日 (表書)

御能組／龜田シテ迫田猛彦ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・大前原清右衛門・小濱弥兵衛・太願川嘉七・笛松元清右衛門・アイ尾上祐左衛門／兼平シテ藤崎健左衛門ワキ岡積與兵衛・大外山真介・小迫田猛彦・笛土持綱・アイ前原七郎／玉葛シテ小幡壯八郎ワキ森八郎次・大前田清右衛門・小迫田猛彦・笛山口新十郎・アイ國分八郎左衛門／俊寛シテ竹崎仲之丞ツレ前田清右衛門・岡積與兵衛ワキ森八郎次・小幡壯八郎・小濱弥兵衛・笛山

口新十郎・アイ尾上祐左衛門／照君シテ外山真介ツレ迫田猛彦・大重彦左衛門ワキ岡積與兵衛・太前田清右衛門・小濱弥兵衛・太木場増太・笛松元清右衛門／岡太夫・前原七郎・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門・大重正兵衛／唐人子宝・市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛・尾上慶二／土筆・國分八郎左衛門・前原七郎／舟渡聲・市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛

御明治十八年十一月二十四日付能組 (衷端書) 酉十一月廿四日 (表書)

御能組／放生川シテ藤崎健左衛門ツレ大重彦左衛門ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・大外山真介・小木場増太・太願川嘉七・笛松元清右衛門・アイ尾上祐左衛門／土蜘蛛シテ小幡壯八郎ツレ田原喜之助・宮元吉次郎・真川勢兵衛ワキ森八郎次ワキツレ小幡勇次郎・岡積與兵衛・大木場増太・小市来平太・太願川嘉七・笛土持綱・元・市来嘉兵衛／誓願寺シテ外山真介ワキ森八郎次・大木場増太・小幡壯八郎・太願川嘉七・笛松元清右衛門・アイ國分八郎左衛門／鉢木シテ森静枝ツレ池田休左衛門ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・大外山真介・小迫田猛彦・笛松元清右衛門・アイ國分八郎左衛門・尾上祐左衛門／絃シテ竹崎仲之丞ツレ土持綱之・大重彦左衛門・池田休左衛門ワキ岡積與兵衛・小幡壯八郎・小迫田猛彦・太木場増太・笛松元清右衛門・アイ前原七郎／二人袴・前原七郎・國分八郎左衛門・市来嘉兵衛・尾上祐左衛門／若菜・市来嘉兵衛・真川勢兵衛・大重正兵衛・木場増太・尾上祐左衛門・前原七郎／酢薺・國分八郎左

衛門・前原七郎／附子 真川勢兵衛・大重正兵衛・市来嘉兵衛

明治十八年十二月二十四日付能組 (表端書) 西十二月廿四日

(表書) 御能組／蟻通シテ外山真介ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛太
前田清右衛門小迫田猛彦太木場増太苗松元清右衛門／放下僧シテ竹崎
仲之丞ツレ迫田猛彦ワキ森八郎次大外山真介小小幡壮八郎苗松元清右
衛門アイ園分八郎左衛門／砧シテ小幡壮八郎ツレ竹崎仲之丞ワキ森八郎
次大前田清右衛門小木場増太太額川嘉七苗松元清右衛門アイ尾上祐左
衛門／烏帽子折シテ森静枝ツレ池田休左衛門・田原喜之助・大重彦左
衛門・岡積與兵衛ワキ森八郎次大木場増太小迫田猛彦太池之上権四郎
苗土持綱元アイ前原七郎・園分八郎左衛門・尾上祐左衛門・尾上慶二
／鉦道シテ藤崎健左衛門ワキ岡積與兵衛大前田清右衛門小市来平太太
額川嘉七苗山口新十郎アイ前原七郎／呼声 大重正兵衛・市来嘉兵
衛・真川勢兵衛／木六駄 前原七郎・園分八郎左衛門・尾上祐左衛
門・真川勢兵衛／宗八 真川勢兵衛・大重正兵衛・尾上祐左衛門／
米市 園分八郎左衛門・惣人数

明治十九年正月三日付能組 (表端書) 戊正月三日 (表書) 御

松囃子組／四海浪 老松シテ外山真介ワキ森八郎次大前田清右衛門小
市来平太太木場増太苗松元清右衛門／東北シテ小幡壮八郎大前田清右
衛門小迫田猛彦苗山口新十郎／高砂シテ竹崎仲之丞ワキ森八郎次大前
田清右衛門小迫田猛彦太額川嘉七苗松元清右衛門／松樫 真川勢兵

衛／三人夫 園分八郎左衛門／以上

明治十九年二月一日付能組 (表端書) 戊二月朔日 (表書) 御

能組／富士山シテ外山真介ツレ大重彦左衛門・迫田猛彦ワキ岡積與兵
衛ワキツレ竹下吉太郎大前田清右衛門小木場増太太額川嘉七苗松元清右
衛門アイ尾上祐左衛門／熊坂シテ岩重清藏ワキ岡積與兵衛大幡壮八
郎小迫田猛彦太額川嘉七苗土持綱元アイ尾上祐左衛門／松風シテ小幡
壮八郎ツレ岩重清藏ワキ池田休左衛門大前田清右衛門小迫田猛彦苗松
元清右衛門アイ尾上慶二／七騎落シテ市来平太ツレ土持綱元・尾上慶
二・池田休左衛門・大重彦左衛門・岡積與兵衛・真川勢兵衛・藤崎
健左衛門ワキ森八郎次大外山真介小迫田猛彦苗山口新十郎アイ園分八
郎左衛門／船渡聲 前原七郎・園分八郎左衛門・尾上祐左衛門／神
鳴 真川勢兵衛・大重正兵衛／蟹山伏 園分八郎左衛門・尾上祐左
衛門・尾上慶二／縄なひ 大重正兵衛・真川勢兵衛・尾上祐左衛門
(別紙一) 松風大鼓外山真介小幡市来平太 (別紙二) 七騎落脇小幡勇
次郎／熊坂間前原七郎／蝦良間前原七郎

明治十九年二月二十四日付能組 (表端書) 戊／旧二月廿四日

(表書) 御能組／車僧シテ藤崎健左衛門ワキ岡積與兵衛太木場増太
小迫田猛彦太額川嘉七苗松元清右衛門アイ園分八郎左衛門／頼政シテ
小幡壮八郎ワキ岡積與兵衛大外山真介小迫田猛彦苗土持綱之アイ前原
七郎／井筒シテ小幡壮八郎ワキ森八郎次大前田清右衛門小迫田猛彦苗

松元清右衛門・アイ國分八郎左衛門／百萬シテ外山真介ワキ池田休左衛門・大前田清右衛門・小幡壯八郎・太木場増太・笛山口新十郎・アイ尾上祐左衛門・羅生門・藤崎健左衛門・ワキ森八郎・次ワキ尾上慶二・大重彦左衛門・岡積與兵衛・大前田清右衛門・小幡次太・太額川嘉七・笛山口新十郎・アイ前原七郎・棒しぱり・前原七郎・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門／寡爭・真川勢兵衛・大重正兵衛／引括・國分八郎左衛門・前原七郎・尾上祐左衛門／長光・大重正兵衛・真川勢兵衛・尾上祐左衛門（別紙一）百萬子形藤崎直（別紙二）鶴シテ迫田猛彦ワキ八郎・次大前田清右衛門・小幡壯八郎・太額七・笛清左衛門／芥川・國分八郎左衛門・前原七郎

御明治十九年三月二十四日付館組（表端書）戊三月廿四日（表書）

御館組／西王母シテ藤崎健左衛門・ツレ尾上慶二ワキ岡積與兵衛・太木場増太・迫田猛彦・太額川嘉七・笛松元清右衛門・アイ尾上祐左衛門／大佛供養シテ外山真介・ツレ大重彦左衛門・土持綱元・藤崎直ワキ岡積與兵衛・大前田清右衛門・小幡壯八郎・笛山口新十郎・アイ國分八郎左衛門／善千鳥シテ外山真介・ツレ迫田猛彦・藤崎直ワキ池田休左衛門・大前田清右衛門・小幡増太・笛山口新十郎・アイ尾上祐左衛門／橋弁慶シテ外山真介・真川勢兵衛・尾上慶二・大前田清右衛門・小幡田猛彦・土持綱元・アイ前原七郎・尾上祐左衛門／大原御幸シテ小幡壯八郎・ツレ大重彦左衛門・池田休左衛門・前原七郎・ワキ森八郎・次大前田清右衛門・小幡増太・

土持綱元・アイ真川勢兵衛／春日龍神シテ岩重清藏ワキ岡積與兵衛・大外山真介・小市来平・太木場増太・笛松元清右衛門・アイ國分八郎左衛門／鷹盗人・前原七郎・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門／祢宜山伏・尾上祐左衛門・前原七郎・國分八郎左衛門・尾上慶二／因幡堂・大重正兵衛・真川勢兵衛／伯養・國分八郎左衛門・前原七郎・尾上祐左衛門

御明治十九年六月九日付館組（表端書）戊旧六月九日（表書）

御館組／葛城シテ藤崎健左衛門・ワキ森八郎・次太木場増太・小幡壯八郎・太額川嘉七・笛松元清右衛門・アイ尾上祐左衛門／忠度シテ岩重清藏ワキ池田休左衛門・大前田清右衛門・小幡増太・土持綱元・アイ前原七郎／木賊シテ小幡壯八郎・ツレ大庭席・大重彦左衛門・池田休左衛門・ワキ森八郎・次大前田清右衛門・小幡田猛彦・笛松元清右衛門・アイ前原七郎／通小町シテ小幡壯八郎・ツレ小幡勇次郎・ワキ森八郎・次大前田清右衛門・小幡田猛彦・土持綱元・アイ國分八郎左衛門／郎那シテ外山真介・ツレ尾上慶二ワキ岡積與兵衛・ワキツレ土持綱元・大前田清右衛門・小市来平・太木場増太・笛山口新十郎・アイ尾上祐左衛門／春日龍神シテ岩重清藏ワキ岡積與兵衛・大外山真介・小市来平・太木場増太・笛山口新十郎・アイ國分八郎左衛門／富士松・國分八郎左衛門・前原七郎／盆山・黒岩伝太郎・尾上祐左衛門／舟船・尾上祐左衛門・國分八郎左衛門／瓜盗人・國分八郎左衛門・真川勢兵衛／猿座頭・前原七郎・尾上祐左衛門・國分八郎左衛門

・尾上慶二

御明治十九年八月二十四日付能組 (裏端書) 戊八月廿四日 (表

書) 御能組／小銀治シテ追田猛彦ワキ藤崎健左衛門ワキツレ岡積與兵衛
大前田清右衛門小小濱弥兵衛太額川嘉七 笛山口新十郎アイ尾上祐左衛
門／巴シテ追田猛彦ワキ小幡勇次郎大前田清右衛門小小幡壮八郎 笛土
持綱之アイ國分八郎左衛門／江口シテ小幡壮八郎ワキ森八郎次大前田
清右衛門小小濱弥兵衛笛山口新十郎アイ前原七郎／天鼓シテ小幡壮八
郎ワキ岡積與兵衛大前田清右衛門小小濱弥兵衛笛松元清右衛門アイ國
分八郎左衛門／融シテ竹崎仲之丞ワキ森八郎次太外山真介小小濱弥兵
衛太額川嘉七 笛松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／北野參 前原七郎・
國分八郎左衛門／惡防、市來嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛／武
惡 國分八郎左衛門・前原七郎・尾上祐左衛門／鏝腹 市來嘉兵衛・
・大重正兵衛・真川勢兵衛／連歌盗人 大重正兵衛・市來嘉兵衛・
真川勢兵衛／(別紙) 江口 連、追田猛彦・土持綱之、脇連 小幡
勇次郎

御明治十九年十月十日付能組 (裏端書) 十九年戌九月十三日、

新十月十日 (内容) 御能組／白髭シテ外山真介ツレ大重彦左衛門 明神
小幡勇次郎天玄尾上慶二ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛大前田清右衛
門小小幡壮八郎太木場増太 笛山口新十郎アイ國分八郎左衛門／実盛シテ
藤崎健左衛門ワキ池田休左衛門ワキツレ岡積與兵衛大前田清右衛門小木

場増太太額川嘉七 笛山口新十郎アイ前原七郎／柏崎シテ小幡壮八郎シテ
ツレ大庭序ワキ小幡勇次郎ワキツレ真川勢兵衛太外山真介小市來平太 笛
山口新十郎／安宅シテ外山真介ツレ尾上慶二・小幡勇次郎・真川勢兵
衛・木場貞政・宮元吉次郎・田原喜之助・岡積與兵衛・池田休左衛
門・大重彦左衛門・藤崎健左衛門ワキ森八郎次大前田清右衛門小市來
平太 笛松元清右衛門アイ國分八郎左衛門・尾上祐左衛門／須磨源氏
シテ竹崎仲之丞ワキ木場貞政大前田清右衛門小木場増太太額川嘉七 笛松
元清右衛門アイ尾上祐左衛門／萩大名 國分八郎左衛門・前原七郎
・真川勢兵衛／子盗人 前原七郎・尾上祐左衛門・國分八郎左衛門
／柿山伏 前原七郎・國分八郎左衛門／三人片輪 外山真介・真川
勢兵衛・木場増太・竹崎仲之丞

御明治十九年十月二十四日付能組 (裏端書) 旧曆丙戌十月廿四

日 (表書) 御能組／翁 三番叟 前原七郎・面箱千歳 尾上祐左衛
門、脇鼓 小幡壮八郎・小幡勇次郎／大社シテ竹崎仲之丞ツレ尾上慶
二・藤崎健左衛門・大重彦左衛門ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・
木場貞政大前田清右衛門小木場増太太額川嘉七 笛松元清右衛門アイ國
分八郎左衛門／鞍馬天狗シテ小幡壮八郎ツレ尾上早見・尾上慶二・友
崎直・大庭序ワキ池田休左衛門大前田清右衛門小木場増太太額川嘉七
笛山口新十郎アイ國分八郎左衛門・尾上祐左衛門／枕慈童シテ岩重清
憲ワキ木場貞政大前田清右衛門小木場増太太額川嘉七 笛山口新十郎／

道成寺シテ外山真介ワキ森八郎次ワキツレ小幡勇次郎・岡積與兵衛・大前田清右衛門・小市来平太・木場増太・笛松元清右衛門・アイ・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門／猩々シテ田原善之助ワキ岡積與兵衛・大前田清右衛門・小幡壯八郎・木場増太・笛山口新十郎／八幡の前・尾上祐左衛門・國分八郎左衛門・真川勢兵衛・前原七郎／福の神・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門・真川勢兵衛／仁王・木場増太・小幡壯八郎・藤崎健左衛門・栗川用昌・竹崎仲之丞・前田清右衛門・内田善七郎・尾山慶二・岡積與兵衛・森八郎次／葉水・前原七郎・國分八郎左衛門・木場増太・尾上祐左衛門

明治十九年十一月二十四日付能組 (裏端書) 戊十一月廿四日

(表書) 御能組／大会シテ藤崎健左衛門ツレ尾上慶二ワキ岡積與兵衛・大前田清右衛門・木場増太・太額川嘉七・笛山口新十郎・アイ・國分八郎左衛門・前原七郎／通盛シテ竹崎仲之丞ツレ大重彦左衛門ワキ小幡勇次郎・大前田清右衛門・木場増太・太額川嘉七・笛山口新十郎・アイ・尾上祐左衛門／芭蕉シテ外山真介ワキ森八郎次・大前田清右衛門・小市来平太・笛松元清右衛門・アイ・國分八郎左衛門／芦刈シテ小幡壯八郎ツレ小幡勇次郎ワキ岡積與兵衛・大前田清右衛門・木場増太・笛松元清右衛門・アイ・前原七郎／紅葉狩シテ岩重清憲ツレ小幡勇次郎・大重彦左衛門ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・大前田清右衛門・小市来平太・木場増太・笛松元清右衛門・アイ・尾上祐左衛門・國分八郎左衛門／大黒連歌・尾上祐左衛門・國分八

郎左衛門・真川勢兵衛／名取川・黒岩伝太郎・真川勢兵衛／長光前原七郎・尾上祐左衛門・真川勢兵衛／呂建・國分八郎左衛門・前原七郎・尾上祐左衛門

明治十九年十二月二十四日付能組 (裏端書) 旧戊十二月廿四日

(表書) 御能組／和布刈シテ岩重清憲ツレ大重彦左衛門・尾上慶二ワキ小幡勇次郎ワキツレ岡積與兵衛・大前田清右衛門・木場増太・太額川嘉七・笛松元清右衛門・アイ・尾上祐左衛門／頼政シテ外山真介ワキ岡積與兵衛・大前田清右衛門・木場増太・笛山口新十郎・アイ・尾上祐左衛門／定家シテ小幡壯八郎ワキ森八郎次・大外山真介・小幡増太・笛松元清右衛門・アイ・前原七郎／鉢木シテ竹崎仲之丞ツレ木場貞政ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・大前田清右衛門・小市来平太・笛松元清右衛門・アイ・真川勢兵衛・國分八郎左衛門／シテ藤崎健左衛門ワキ岡積與兵衛・大前田清右衛門・小外山真介・木場増太・笛山口新十郎・アイ・國分八郎左衛門／連尺・國分八郎左衛門・前原七郎・尾上祐左衛門／居杭・竹崎仲之丞・外山真介・木場増太／宗論・前原七郎・尾上祐左衛門・真川勢兵衛／棒縛・木場増太・外山真介・真川勢兵衛／(別紙) 鉢木・殺生石・小鼓・市来平太

明治二十年一月二十四日付能組 (裏端書) 二十年旧正月廿四日

(内容) 御能組／源太夫シテ外山真介ツレ木場貞政・尾上慶二ワキ岡積與兵衛・大前田清右衛門・木場増太・太額川嘉七・笛山口新十郎・アイ・國

分八郎左衛門／田村シテ藤崎健左衛門ワキ小幡勇次郎・大前田清右衛門
小外山真介・苗松元清右衛門・アイ尾上祐左衛門／胡蝶シテ竹崎仲之丞ワキ
池田休左衛門・大前田清右衛門・小木場増太・太額川嘉七・苗松元清右衛門
・アイ前原七郎／山姥シテ小幡壮八郎ツレ木場貞政ワキ・森八郎次・大外山真
介・小市来平・太木場増太・苗山口新十郎・アイ尾上祐左衛門／芳野天人シテ
小幡勇次郎ワキ・岡積興兵衛・大前田清右衛門・小市来平・太木場増太・苗松
元清右衛門・アイ園分八郎左衛門／腹不立 尾上祐左衛門・園分八郎
左衛門・前原七郎／棒縛 木場増太・外山真介・真川勢兵衛／骨皮
前原七郎・園分八郎左衛門・真川勢兵衛・尾上祐左衛門・木場増
太／首引 園分八郎左衛門・尾上祐左衛門・木場増太・前原七郎・
真川勢兵衛

明治二十年一月二十六日付能組 (表端書) 明治二十年一月廿
六日旧丁亥正月三日 (内容) 御松囃子組／四海浪／老松シテ小幡壮
八郎・大前田清右衛門・小市来平・太木場増太・苗松元清右衛門／東北シテ
外山真介・大前田清右衛門・小市来平・太苗山口新十郎／高砂シテ岩重清憲
・大前田清右衛門・小市来平・太額川嘉七・苗松元清右衛門／松樫 前原七
郎／三人夫 園分八郎左衛門／以上

明治二十年二月二十四日付能組 (裏端書) 亥旧曆二月廿四日
(表書) 御能組／小塩シテ外山真介ワキ・池田休左衛門ワキツレ小幡勇
次郎・尾上慶二・大前田清右衛門・小木場増太・太額川嘉七・苗山口新十郎

・アイ前原七郎／第六天シテ小幡勇次郎ツレ尾上慶二ワキ・池田休左衛門・大
前田清右衛門・小幡壮八郎・太木場増太・苗山口新十郎・アイ園分八郎左衛
門／熊野シテ小幡壮八郎ツレ木場貞政ワキ・森八郎次ワキツレ岡積興兵衛
・大前田清右衛門・小木場増太・苗松元清右衛門／春栄シテ竹崎仲之丞ツレ
大庭席・木場貞政ワキ・森八郎次ワキツレ岡積興兵衛・大前田清右衛門・小市
来平・太苗松元清右衛門・アイ前原七郎／殺生石シテ藤崎健左衛門ワキ・岡
積興兵衛・太木場増太・小市来平・太額川嘉七・苗山口新十郎・アイ園分八郎
左衛門／呼声 真川勢兵衛・尾上祐左衛門／井噺 園分八郎左衛門
・前原七郎・尾上祐左衛門／朝比奈 前原七郎・尾上祐左衛門／毘
布売 真川勢兵衛・木場増太(別紙) 入狂言 人馬 尾上・前原・
園分

明治二十年四月二十四日付能組 (裏端書) 旧亥四月廿四日／
(表書) 高砂シテ岩重清憲ツレ池田休左衛門ワキ・森八郎次ワキツレ岡積
興兵衛・大前田清右衛門・小木場増太・太額川嘉七・苗松元清右衛門・アイ園分
八郎左衛門／船橋シテ藤崎健左衛門ツレ木場貞政ワキ・小幡勇次郎・太木
場増太・小幡壮八郎・太額川嘉七・苗山口新十郎・アイ園分八郎左衛門
／草紙洗シテ小幡壮八郎ツレ大庭通・竹崎仲之丞・木場貞政・小幡勇
次郎ワキ・池田休左衛門・大前田清右衛門・小木場増太・太松元清右衛門・苗
尾上祐左衛門／阿漕シテ竹崎忠之丞ワキ・岡積興兵衛・太木場増太・小幡
壮八郎・太額川嘉七・苗山口新十郎・アイ前永七郎／谷行シテ竹崎仲之丞ツレ

藤崎健左衛門・尾上慶ニワキ森八郎次ワキツレ池田休左衛門・木場貞政・岡積與兵衛・小幡勇次郎次大外山真介小市来平太木場増太笛山口新十郎アイ園分八郎左衛門／船弁慶シテ外山真介ツレ尾上慶ニワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛大前田清右衛門小市来平太木場増太笛松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／三本柱 前原七郎・園分八郎左衛門・尾上祐左衛門・真川勢兵衛／不聞座頭 木場増太・園分八郎左衛門・前原七郎／吃り 前原七郎・真川勢兵衛・尾上祐左衛門／武惠 園分八郎左衛門・前原七郎・尾上祐左衛門／右近左近 園分八郎左衛門・尾上祐左衛門

御明治二十年八月十五日付能組 (裏端書) 旧亥八月十五日 (表

書) 御囃子狂言組／竹生島シテ岩重清憲大前田清右衛門小幡壯八郎太木場増太笛松元清右衛門／桜川シテ木場増太大増田清右衛門小幡壯八郎笛山口新十郎／融シテ外山真介大前田清右衛門小市来平太木場増太笛松元清右衛門／萩大名 外山真介・木場増太・前原七郎／井礪 小幡壯八郎・尾上祐左衛門・木場貞政／苾苾 岡積與兵衛・岩重清憲・小幡勇次郎／宗八 尾上祐左衛門・前田清右衛門・真川勢兵衛／右近左近 藤崎健左衛門・園分八郎左衛門 蟹山伏 尾上慶ニ・大庭通・藤崎直／二人袴 竹崎仲之丞・園分八郎左衛門・外山真介・真川勢兵衛／花折 木場増太・小幡壯八郎・外山真介・栗川用昌・竹崎仲之丞・藤崎健左衛門・森八郎次・岩重清憲／(別紙)

御囃子狂言組／竹生嶋・桜川・融・萩大名・苾苾・井礪・右近左近・宗八・蟹山伏・二人袴・花折

御年代不明正月二日付松囃子組 旧曆正月二日／御松囃子組／四海浪／老松 石原渡右衛門／小真松樫 真川勢兵衛／東北 小幡壯八郎／三人夫 前原七郎／高砂 外山真介／地岩重清憲・竹崎忠之丞・調所笑左衛門・藤崎健左衛門／以上

御年代不明松囃子組 (内容) 御松囃子組／四海浪／老松シテ小幡壯八郎ワキ森八郎次大前田清右衛門小小浪弥兵衛太額川嘉七笛松元清右衛門／東北シテ岩重清憲大有馬辰次郎小小浪弥兵衛笛山口新十郎／高砂シテ外山真介ワキ森八郎次大前田清右衛門小小浪弥兵衛太池山権四郎笛松元清右衛門／松樫 前原七郎／三人夫 市来加兵衛／以上

御年代不明閏一月二十五日付能組 (裏端書) 旧閏正月廿五日 (表書) 御能組／加茂シテ藤崎健左衛門ツレ尾上慶ニ・木場貞政ワキ岡積與兵衛大前田清右衛門小幡増太太額川嘉七笛山口新十郎アイ尾上祐左衛門／忠度シテ竹崎仲之丞ワキ池田休左衛門大外山真介小幡壯八郎笛山口新十郎アイ前原七郎／空蟬シテ岩重清憲ワキ木場貞政大前田清右衛門小幡増太笛松元清右衛門アイ園分八郎左衛門／吉野静シテ外山真介ワキ岡積與兵衛大木場増太小幡壯八郎笛松元清右衛門アイ前原七郎・尾上祐左衛門／善千鳥シテ小幡壯八郎ツレ大庭通・岡積與兵衛ワキ森八郎次大木場増太小市来平太笛山口新十郎アイ真川勢兵衛／黒

塚シテ竹崎仲之丞ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛大外山真介小市来平
太木場増太笛松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／靱猿 国分八郎左衛
門・前原七郎・木場増太・尾上慶二／千鳥 前原七郎・国分八郎左
衛門・真川勢兵衛／横座 前原七郎・国分八郎左衛門・大庭通／栗
焼 国分八郎左衛門・真川勢兵衛／犬山伏 尾上祐左衛門・前原七
郎・国分八郎左衛門・大庭通

明治年代不明九月二十五日付能組 (裏端書) 旧九月廿五日 (表書)

御能組／竹生島シテ外山真介ツレ田原善之助ワキ栗川要昌ワキツレ森八
郎次・小幡勇次郎大前田清右衛門小小幡壮八郎太木場増太笛松元清右
衛門アイ尾上祐左衛門／八嶋シテ藤崎健左衛門ツレ大重彦左衛門ワキ岡
積與兵衛大外山真介小木場増太笛山口新十郎／采女シテ竹崎仲之丞ワキ
木場貞政大前田清右衛門小小幡壮八郎笛松元清右衛門アイ国分八郎左
衛門／鉄輪シテ小幡壮八郎ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛大前田清右
衛門小市来平太木場増太七笛山口新十郎アイ尾上祐左衛門／合甫シテ
小幡勇次郎ワキ真川勢兵衛大外山真介小木場増太太木場増太七笛山口新
十郎アイ前原七郎・国分八郎左衛門・尾上祐左衛門／鍋八ツ撥 木
場増太 真川勢兵衛・前原七郎／布施無経 国分八郎左衛門・前原
七郎／闊罪人 前原七郎・国分八郎左衛門・尾上祐左衛門・前田清
右衛門・真川勢兵衛・尾上慶二／宗八 尾上祐左衛門／国分八郎左
衛門・真川勢兵衛／八島之間那須 前原七郎 (別紙) 鉄輪小鼓市来平

太

明治年代不明十月廿三日御能組 (内容) 御能組／翁 而箱千歳 尾

上祐左衛門・三番叟 前原七郎監鼓迫田猛彦・外山真介／難波シテ小
幡壮八郎ツレ迫田猛彦ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛大前田清右衛門
小木場増太太木場増太七笛松元清右衛門アイ国分八郎左衛門／枕蓑童シテ
岩重清憲ワキ小幡勇次郎大木場増太迫田猛彦太木場増太七笛松元清右
衛門／三輪シテ外山真介ワキ森八郎次大前田清右衛門小小幡壮八郎太
木場増太笛松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／石橋シテ竹崎仲之丞ツレ
藤崎健左衛門ワキ森八郎次大前田清右衛門小小幡壮八郎太木場増太笛
山口新十郎／祝言與服シテ藤崎健左衛門ワキ岡積與兵衛大外山真介小
場増太太木場増太七笛山口新十郎／末広 市来嘉兵衛・大重正兵衛・
真川勢兵衛／止勳方角 尾上祐左衛門・国分八郎左衛門・前原七郎
・尾上慶二／菊水 市来嘉兵衛・真川勢兵衛・大重正兵衛・尾上祐
左衛門／袂鼓 国分八郎左衛門・前原七郎 (別紙二) 枕蓑童跡／
小鼓毛挺／芦刈笠之段 外山真介・市来平太 (別紙二) 旧曆十月廿
三日／御能組／翁 三番叟／難波／枕蓑童／三輪／石橋／祝言 貴殿
／末広／止勳方角／菊水／拔鼓

明治年月日不詳能組 御能組／淡路シテ外山真介ツレ山元正助ワキ森
八郎次ワキツレ小幡勇次郎大前田清右衛門小小幡壮八郎太木場増太七笛松
元清右衛門アイ前原七郎／淀潜シテ藤崎健左衛門ツレ山元正太郎ワキ岡

積與兵衛・大有馬辰次郎・小小濱弥兵衛・太額川嘉七・畠山口新十郎・アイ・國分八郎・左衛門／六浦・シテ小幡壯八郎・ワキ・池田休左衛門・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・太池之上・權四郎・苗松元清右衛門・アイ・尾上祐左衛門／桜川・シテ竹崎伸之丞・ツレ有馬岩七・ワキ・岡積與兵衛・大有馬辰次郎・小小濱弥兵衛・畠山口新十郎／通小町・シテ小幡壯八郎・ツレ・迫田猛彦・ワキ・森八郎・次・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・苗土持綱元／音曲聲・大重正兵衛・市来嘉兵衛・真川勢兵衛・尾上祐左衛門／葦山伏・國分八郎・左衛門・前原七郎・惣人數／柑子・市来嘉兵衛・真川勢兵衛／塗師・前原七郎・尾上祐左衛門・國分八郎・左衛門／石神・市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛

○年月日不詳館組 御館組／右近・シテ小幡壯八郎・ツレ・迫田猛彦・土持綱元・ワキ・森八郎・次・ワキ・ツレ・岡積與兵衛・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・太額川嘉七・畠山口新十郎・アイ・尾上祐左衛門／藤榮・シテ石原渡右衛門・ツレ・池田休左衛門・有馬岩七・ワキ・森八郎・次・ワキ・ツレ・岡積與兵衛・迫田猛彦・大有馬辰次郎・小小濱弥兵衛・太額川嘉七・苗松元清右衛門・アイ・前原七郎・尾上祐左衛門／楊貴妃・シテ小幡壯八郎・ワキ・迫田猛彦・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・苗松元清右衛門・アイ・尾上祐左衛門／舟橋・シテ外山真介・ツレ・宮元吉次郎・ワキ・岡積與兵衛・大有馬辰次郎・小小濱弥兵衛・太額川嘉七・畠山口新十郎・アイ・市来嘉兵衛／絃上・シテ石原渡右衛門・ツレ・迫田猛彦・池田休左衛門・ワキ・森八郎・次・ワキ・ツレ・岡積與兵衛・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛

太額川嘉七・苗松元清右衛門・アイ・前原七郎／入間川・市来嘉兵衛・真川勢兵衛・大重正兵衛／苅尊・尾上祐左衛門・大重正兵衛・前原七郎／文山立・大重正兵衛・真川勢兵衛／布施無經・市来嘉兵衛・真川勢兵衛／岡罪人・前原七郎／市来嘉兵衛・尾上祐左衛門・真川勢兵衛・大重正兵衛／（別紙）右近・入間川・藤榮・苅尊・楊貴妃／御中入／文山立・舟橋・布施無經・岡罪人・絃上

○（年月日不詳館組）御館組／草薙・シテ・迫田猛彦・ツレ有馬岩七・ワキ・池田休左衛門・大有馬辰次郎・小小濱弥兵衛・太額川嘉七・畠山口新十郎・アイ・前原七郎／朝長・シテ外山真介・ワキ・森八郎・次・ワキ・ツレ・岡積與兵衛・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・太池之上・權四郎・苗松元清右衛門・アイ・市来嘉兵衛／竹之雪・シテ石原渡右衛門・ツレ・池田休左衛門・有馬岩七・ワキ・森八郎・次・大有馬辰次郎・小小濱弥兵衛・苗土持綱元・アイ・國分八郎・左衛門・尾上祐左衛門／班女・シテ小幡壯八郎・ワキ・森八郎・次・ワキ・ツレ・岡積與兵衛・大前田清右衛門・小小濱弥兵衛・畠山口新十郎・アイ・前原七郎／野守・シテ竹崎伸之丞・ワキ・迫田猛彦・大有馬辰次郎・小小濱弥兵衛・太額川嘉七・苗松元清右衛門・アイ・前原七郎／輝・市来嘉兵衛・大重正兵衛／因幡堂・國分八郎・左衛門・尾上祐左衛門／鬼之槌・市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛／吃・前原七郎・國分八郎・左衛門・尾上祐左衛門／（別紙二）竹之雪・鬼之槌／御中入／班女／（別紙二）班女・前原七郎・代り・尾上祐左衛門

嗣年月日不詳能組 御能組／和布刈シテ竹崎仲之丞ツレ迫田猛彦
 ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・藤崎健左衛門大有馬辰次郎小小瀨弥兵衛太池之上樞四郎笛山口新十郎アイ尾上祐左衛門／經政シテ宮元吉次郎ワキ山元正太郎大前田清右衛門小小瀨弥兵衛土持綱元／紅葉狩シテ石原渡右衛門ツレ土持綱元・池田休左衛門・有馬岩七ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・迫田猛彦大有馬辰次郎小小瀨弥兵衛太池之上樞四郎笛山松元清右衛門アイ大重正兵衛・真川勢兵衛／鉢木シテ外山真介シテツレ調所笑左衛門ワキ榮八郎次大前田清右衛門小小瀨弥兵衛笛山口新十郎アイ市来嘉兵衛・大重正兵衛／融シテ小幡壯八郎ワキ岡積與兵衛大有馬辰次郎小小瀨弥兵衛太池之上樞四郎笛山松元清右衛門アイ園分八郎左衛門／鋸 園分八郎左衛門・尾上祐左衛門・前原七郎／文荷 大重正兵衛・市来嘉兵衛・真川勢兵衛／氏結 市来嘉兵衛・真川勢兵衛・大重正兵衛／木六駄 前原七郎・真川勢兵衛・園分八郎左衛門・尾上祐左衛門／以上

嗣年月日不詳能組 御能組／威陽宮シテ竹崎仲之丞ツレ土持綱元ワキ森八郎次ワキツレ迫田猛彦大有馬辰次郎小小瀨弥兵衛太池之上樞四郎笛山口新十郎アイ園分八郎左衛門／春榮シテ迫田猛彦ツレ宮元吉次郎・山元正太郎ツレ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛大前田清右衛門小小瀨弥兵衛笛山松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／蟬丸シテ小幡壯八郎ツレ竹崎仲之丞ワキ岡積與兵衛大有馬辰次郎小小瀨弥兵衛笛山口新十郎アイ真川

勢兵衛／自然居士シテ調所笑左衛門ワキ森八郎次ワキツレ迫田猛彦大前田清右衛門小小瀨弥兵衛笛山松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／照君シテ石原渡右衛門ツレ土持綱元・有馬岩七ワキ岡積與兵衛大有馬辰次郎小小瀨弥兵衛太額川嘉七笛山松元清右衛門／鴈々金 園分八郎左衛門・尾上祐左衛門・市来嘉兵衛／人か杭か 市来嘉兵衛・真川勢兵衛・酢登 尾上祐左衛門・園分八郎左衛門／月見座頭 市来嘉兵衛・真川勢兵衛／仁王 市来嘉兵衛・惣人数／以上／（別紙）威陽宮・雁々金・春榮・人か杭か・酢登／御中入／蟬丸・月見座頭・自然居士・仁王・照君

嗣年月日不詳能組 御能組／室君シテ山元正太郎ツレ藤崎健左衛門・田代喜代助・朝倉正之助ワキ田原善之助大前田清右衛門小小瀨弥兵衛太額川嘉七笛山松元清右衛門／頼政シテ石原渡右衛門ワキ森八郎次大外山真介小小瀨弥兵衛土持綱元アイ市来嘉兵衛／藤シテ岩重清藏ワキ池田休左衛門大前田清右衛門小小瀨弥兵衛太額川嘉七笛山口新十郎アイ園分八郎左衛門／安宅シテ外山真介ツレ渡辺善右衛門・宮元吉次郎・田代源左衛門・山元正助・池畑平蔵・田原善之助・山元正太郎・池田休左衛門・迫田猛彦・小笠原表左衛門・渡辺平八ワキ前原七郎大前田清右衛門小小瀨弥兵衛笛山松元清右衛門アイ尾上祐左衛門・真川勢兵衛／天鼓シテ小幡壯八郎ワキ森八郎次大石原渡右衛門小小瀨弥兵衛笛山松元清右衛門アイ園分八郎左衛門／餅酒 園分八郎左衛門・

尾上祐左衛門・前原七郎／連歌盗人 市来嘉兵衛・真川勢兵衛・尾上祐左衛門／察花 前原七郎・市来嘉兵衛・国分八郎左衛門／舍弟 尾上祐左衛門・黒岩伝太郎・国分八郎左衛門／宗論 市来嘉兵衛・前原七郎・真川勢兵衛／以上

同年月日不詳能組 御能組／大蛇シテ石原渡右衛門ツレ迫田猛彦・池田休左衛門ワキ森八郎次ワキツレ藤崎健左衛門大前田清右衛門小小濱弥兵衛太願川嘉七番松元清右衛門アイ市来嘉兵衛／巻絹シテ小幡壮八郎ツレ池田休左衛門ワキ森八郎次大前田清右衛門小小濱弥兵衛太願川嘉七番松元清右衛門アイ真川勢兵衛／猩々シテ小幡壮八郎ワキ藤崎健左衛門大有馬辰次郎小小濱弥兵衛太願川嘉七番松元清右衛門／鴈藻 国分八郎左衛門・前原七郎・尾上祐左衛門／昆布亮 市来嘉兵衛・真川勢兵衛／樺縛 前原七郎・尾上祐左衛門・国分八郎左衛門／以上

同年月日不詳能組 御能組／蟬林院シテ小幡壮八郎ワキ岡積與兵衛大有馬辰次郎小小濱弥兵衛太池田休左衛門 苗松元清右衛門アイ前原七郎／段滑シテ石原渡右衛門ツレ迫田猛彦・岡積與兵衛ワキ森八郎次大前田清右衛門小小濱弥兵衛苗土持綱元／邯鄲シテ小幡壮八郎ワキ森八郎次ワキツレ迫田猛彦大有馬辰次郎小小濱弥兵衛太願川嘉七番松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／谷行シテ竹崎仲之丞ツレ有馬岩七・外山真介ワキ森八郎次ツレ真川勢兵衛・迫田猛彦・池田休左衛門・岡積與兵衛

大前田清右衛門小小濱弥兵衛太池之上樞四郎苗山口新十郎アイ尾上祐左衛門／△／舍利シテ迫田猛彦ツレ有馬岩七ワキ岡積與兵衛大有馬辰次郎小小濱弥兵衛太願川嘉七番山口新十郎アイ前原七郎／人馬 前原七郎・尾上祐左衛門・大重正兵衛／茶盞 市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛／水汲新發意 市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛／狐塚 大重正兵衛・市来嘉兵衛・真川勢兵衛／以上 (別紙) 御入能／△海人シテ外山真介ツレ有馬岩七ワキ森八郎次大前田清右衛門小小濱弥兵衛太願川嘉七番松元清右衛門アイ前原七郎／川上座頭 市来嘉兵衛・大重正兵衛

同年月日不詳能組 御能組／翁 千歳面箱 尾上祐左衛門、三番叟 市来嘉兵衛、脇鼓 石倉渡右衛門・小幡壮八郎／養老シテ外山真介ツレ山元正太郎ワキ森八郎次大前田清右衛門小小濱弥兵衛太願川嘉七番松元清右衛門／敦盛シテ迫田猛彦ツレ有馬岩七・宮元吉次郎ワキ岡積與兵衛大有馬辰次郎小小濱弥兵衛苗山口新十郎アイ尾上祐左衛門／葛城シテ調所笑左衛門ワキ迫田猛彦大前田清右衛門小小濱弥兵衛太願川嘉七番松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／鳥追シテ石原渡右衛門ツレ有馬岩七ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛大有馬辰次郎小小濱弥兵衛苗土持綱元アイ真川勢兵衛／祝言・岩船シテ小幡壮八郎ワキ池田休左衛門大前田清右衛門小小濱弥兵衛太願川嘉七番山口新十郎／末広 国分八郎左衛門・大重正兵衛・黒岩伝太郎／細なひ 市来嘉兵衛・大重

正兵衛・真川勢兵衛／鳴子 市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛
／福之神 吉田源兵衛・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門／養老間、
藥水 國分八郎左衛門・市来嘉兵衛・尾上祐左衛門・大重正兵衛／
(別紙) 福之神 吉田源兵衛代り 國分八郎左衛門

同年月日不詳能組 御能組／蟻通シテ外山真介ワキ森八郎次ツレ池
田休左衛門 大有馬辰次郎 小小濱弥兵衛 太願川嘉七 笛松元清右衛門／巴
シテ石原渡右衛門ワキ池田休左衛門 大前田清右衛門 小小濱弥兵衛 笛松
元清右衛門 市来嘉兵衛／羽衣シテ石原渡右衛門ワキ森八郎次ワキ
ツレ藤崎健左衛門 大有馬辰次郎 小小濱弥兵衛 太願川嘉七 笛松元清右衛
門／唐船シテ外山真介ツレ林勘次郎・山元正太郎・宮元吉次郎・田原
喜之助ワキ森八郎次 大前田清右衛門 小小濱弥兵衛 太願川嘉七 笛松元清
右衛門 市来嘉兵衛・尾上祐左衛門／鍾馗シテ迫田特彦ワキ藤崎健
左衛門 大有馬辰次郎・小小濱弥兵衛・太願川嘉七 笛松元清右衛門 市来
國分八郎左衛門／文藏 真川勢兵衛・市来嘉兵衛／空腕 國分八郎
左衛門・尾上祐左衛門／八句連歌 市来嘉兵衛・國分八郎左衛門・
真川勢兵衛・尾上祐左衛門／因幡堂 國分八郎左衛門・尾上祐左衛
門／以上

同年月日不詳能組 御能組／小塩シテ岩重清藏ワキ池田休左衛門
ワキツレ有馬岩七・迫田猛彦 大前田清右衛門 小小濱弥兵衛 太願川嘉七 笛
松元清右衛門 尾上祐左衛門／橋弁慶シテ外山真介ツレ岡部龍太郎・

山元正太郎 大有馬辰次郎 小小濱弥兵衛 笛松元清右衛門 國分八郎左衛
門・尾上祐左衛門／杜若シテ竹崎仲之丞ワキ迫田特彦 大前田清右衛門
小小濱弥兵衛 太願川嘉七 笛松元清右衛門／俊寛シテ石原渡右衛門ツレ
前田清右衛門・池田休左衛門ワキ森八郎次 大有馬辰次郎 小小濱弥兵衛
笛松元清右衛門 真川勢兵衛／大會シテ藤崎健左衛門ツレ宮元吉次郎
ワキ岡積與兵衛 大前田清右衛門 小小濱弥兵衛 太願川嘉七 笛松元清右衛
門 前原七郎・國分八郎左衛門／柿山伏 真川勢兵衛・市来嘉兵衛
／飛越 尾上祐左衛門・黒岩傳太郎／花盗人 市来嘉兵衛・惣人数
／惡坊 國分八郎左衛門・尾上祐左衛門・真川勢兵衛／以上

同年月日不詳能組 御能組／枕慈童シテ迫田猛彦ワキ池田休左衛門
大有馬辰次郎 小小濱弥兵衛 太願川嘉七 笛松元清右衛門／田村シテ岩重
清藏ワキ岡積與兵衛 大前田清右衛門 小小濱弥兵衛 笛松元清右衛門 市来
前原七郎／源氏供養シテ外山真介ワキ森八郎次ワキツレ池田休左衛門・
迫田猛彦 大有馬辰次郎 小小濱弥兵衛 太願川嘉七 笛松元清右衛門／弱法師シテ石
原渡右衛門ワキ森八郎次 大前田清右衛門 小小濱弥兵衛 笛松元清右衛門
市来 真川勢兵衛／春日龍神シテ藤崎健左衛門ワキ岡積與兵衛 大有馬辰
次郎 小小濱弥兵衛 太願川嘉七 笛松元清右衛門 市来 前原七郎／胸突 國
分八郎左衛門・尾上祐左衛門／千鳥 市来嘉兵衛・真川勢兵衛・尾
上祐左衛門／太刀奪 前原七郎・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門／
骨皮 真川勢兵衛・市来嘉兵衛・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門・

黒岩傳太郎／以上

明治年月日不詳能組 御能組／車僧シテ迫田猛彦ワキ田原善之助大有馬辰次郎小小濱弥兵衛太額川嘉七笹山口新十郎アイ市来嘉兵衛／通盛シテ竹崎伸之丞シレ池田休左衛門ワキ藤崎健左衛門大前田清右衛門小小濱弥兵衛太額川嘉七笹山口新十郎アイ尾上祐左衛門／東北シテ外山真介ワキ藤崎健左衛門大有馬辰次郎小小濱弥兵衛笹松元清右衛門アイ前原七郎／正尊 シテ石原渡右衛門ツレ迫田猛彦・土持綱之・有馬岩七・藤崎健左衛門・宮元吉次郎ワキ森八郎次大前田清右衛門小小濱弥兵衛・額川嘉七・松元清右衛門アイ尾上祐左衛門／須磨源氏シテ岩重清憲ワキ森八郎次大前田清右衛門小小濱弥兵衛太額川嘉七笹松元清右衛門アイ園分八郎左衛門／寝音曲 市来嘉兵衛・真川勢兵衛／釣狐 園分八郎左衛門・前原七郎／金岡 市来嘉兵衛・真川勢兵衛／清水前原七郎・尾上祐左衛門／箕被 市来嘉兵衛・真川勢兵衛／以上

(別紙) 東北藤崎健左衛門代リ池田休左衛門

明治年月日不詳能組 御能組／殺生石シテ岩重清憲ワキ藤崎健左衛門大前田清右衛門小小濱弥兵衛太額川嘉七笹山口新十郎アイ園分八郎左衛門／兼平シテ藤崎健左衛門ワキ迫田猛彦大有馬辰次郎小小濱弥兵衛笹土持綱元アイ前原七郎／松風・見留シテ石原渡右衛門ツレ吉田源兵衛ワキ池田休左衛門 大前田清右衛門小小濱弥兵衛笹松元清右衛門アイ真川勢兵衛／芦刈シテ吉田源兵衛ツレ迫田猛彦ワキ森八郎次大有馬辰

次郎小小濱弥兵衛笹松元清右衛門アイ市来嘉兵衛／融・笏之舞シテ外山真介ワキ森八郎次大前田清右衛門小小濱弥兵衛太額川嘉兵衛笹松元清右衛門アイ園分八郎左衛門／蚊角力 真川勢兵衛・市来嘉兵衛・園分八郎左衛門／地藏舞 園分八郎左衛門・前原七郎／二千石 市来嘉兵衛・前原七郎／狐塚 前原七郎・園分八郎左衛門・市来嘉兵衛／以上／(別紙) 米市 前原七郎・園分八郎左衛門・市来嘉兵衛・真川勢兵衛・黒岩伝太郎

明治年代不詳能組 御能組／老松シテ小幡壮八郎ツレ迫田猛彦ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・小幡勇次郎大前田清右衛門小有馬辰次郎太額川嘉七笹松元清右衛門アイ前原七郎／田村シテ迫田猛彦ワキ岡積與兵衛大前田清右衛門小小幡壮八郎笹土持綱元アイ尾上祐左衛門／羽衣シテ竹崎伸之丞ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛・小幡勇次郎大有馬辰次郎小小幡壮八郎太山口新十郎笹松元清右衛門／三井寺シテ小幡壮八郎ツレ有馬岩七ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛大前田清右衛門小有馬辰次郎笹山口新十郎アイ園分八郎左衛門・尾上祐左衛門／國栖シテ外山真介ツレ宮元吉次郎・山元正太郎・池田休左衛門ワキ岡積與兵衛ワキツレ森八郎次・小幡勇次郎大有馬辰次郎小小幡壮八郎太額川嘉七笹松元清右衛門アイ大重正兵衛・黒川勢兵衛／祝言金札シテ迫田猛彦ワキ森八郎次大前田清右衛門小小幡壮八郎太額川嘉七笹土持綱元／包丁舞 真川勢兵衛 市来嘉兵衛・大重正兵衛・園分八郎左衛門・尾

上祐左衛門／鍋八ッ撥 前原七郎・國分八郎左衛門・尾上祐左衛門
／鷄流 大重正兵衛・真川勢兵衛／素袍落 市来嘉兵衛・大重正兵
衛・真川勢兵衛／靱猿 國分八郎左衛門・前原七郎・尾上祐左衛門
・尾上慶二／以上

四年代不詳能組 御能組／佐保山シテ藤崎健左衛門ツレ宮元吉次郎
ワキ迫田猛彦大有馬辰次郎小幡壯八郎太池之上樞四郎 笛松元清右衛
門アイ前原七郎／忠度シテ吉田源兵衛ワキ池田休左衛門大外山真介小石
原渡右衛門笛土持綱元アイ尾上祐左衛門／隅田川シテ石原渡右衛門ツレ
有馬岩七ワキ森八郎次ワキツレ岡積與兵衛大有馬辰次郎小幡壯八郎 笛
山口新十郎／望月シテ小幡壯八郎ツレ迫田猛彦・竹崎忠之丞ワキ森八
郎次大有馬辰次郎小石原渡右衛門太額川嘉七・松元清右衛門／山姥
シテ外山真介ツレ宮元吉次郎ワキ岡積與兵衛大有馬辰次郎小幡壯八郎
太額川嘉七 笛山口新十郎アイ尾上祐左衛門／狸々シテ迫田猛彦ワキ壱岐
嘉之助大有馬辰次郎小石原渡右衛門太額川嘉七 笛山口新十郎／鼻取角
力 市来嘉兵衛・大重正兵衛・真川勢兵衛／成上り 尾上祐左衛門
・前原七郎・市来嘉兵衛／こんくわい 大重正兵衛・真川勢兵衛／
寄背 前原七郎・市来嘉兵衛・尾上祐左衛門／花見座頭 市来嘉兵
衛・大重正兵衛・真川勢兵衛・尾上政次／望月間 市来嘉兵衛
四年月日未詳能組断片 野守シテ又ハワキ源七郎大源八小巳之介太
勘兵衛 笛内蔵頭

四能務會員名簿 能務會員名簿 一枚 170×723 (幕末) 能務

會員名簿／仕手役小幡壯八郎／外山真介／岩重清憲／竹崎仲之丞／
森靜枝／藤崎健左衛門／迫田猛彦／大重彦左衛門／山元正助／渡辺
善右衛門／市来平太／島役森八郎次／岡積與兵衛／小幡勇次郎／池
田休左衛門／狂言役前原七郎／國分八郎左衛門／尾上祐左衛門／尾
上慶二／市来嘉兵衛／大重正兵衛／真川勢兵衛／黒岩伝太郎／笛役
松元清右衛門／山口新十郎／土持綱之／大鼓役前田清右衛門／太鼓役
木場増太／額川嘉七／池之上樞四郎／装束君南馬吉左衛門／荒川中
二／内田喜七郎／宮原常次郎／幕掛岩重清治／合長栗川用昌

能組解題

能組のうち、鶴と鶴の実質三回分は一連のものである。鶴にある
ように、この年、享保二十(一七三五)年は「天下御一統干支相当」
のめでたい年まわりであった。すなわち、元和偃武(一六一五年)
の「乙卯」年を祝つての能が催されたのである。これを『徳川実
紀』(国史大系)で見ている。

十一日今年 東照宮海内一統したまひし支干に相当れるをもて
慶宴あり。日光准后并に三家。諸大名。布衣以上の群臣に猿楽
を觀せしめて饗せらる。樂は弓八幡。田村。湯谷。舟弁慶。融。
祝言。狂言二番。麻生。唐相撲。この御祝により。紀水両邸よ

り二種一荷。紀伊の世子及び松平加賀守吉徳。松平兵部大輔宗矩より一種一荷をさくげらる。准后へは高家吉良左京大夫義俊。鶴千代（水戸宗翰）の方に松平右京大夫輝貞御使して。二種一荷つかはさる。

すなわち符合し、しかも、なかなか盛大な催しであったことがわかる。寛政七（一七九五）年もそうである。同じく『徳川実紀』を次に引用する。

十一日 神祖天下御一統の千支相当により御祝の御館あり。よつて日光門主白木書院にて対面せられ。三家の方々は太広間に見え奪り。及び湘詰。譜第の大名。高家。詰衆。奏者番。々頭。物頭。布衣以上の人々。法印法眼の医師まうのほり。御次にありあふともがら見え奉り。少老立花出雲守種周舞台にいひて。能はじむべきよしを伝へて御能はじまる。その番組は弓八幡。田村。湯谷。船弁慶。融。狂言麻生。唐角力なり。御能半に日門へ茶菓を給ふ。又老臣をして日門及び三家のかたへ。ゆる／＼見物あられよと伝へらる。日光門主はじめ。その他のものへ饗給ふ事舊の如し。同じ事を祝して日門。三家より使して二種一荷を捧らる。

続く十二・十三日も関連記事があるように、この年もかなり大掛りなものであったようである。

鶴の安政二（一八五五）年もそうである。但し、『徳川実紀』には五月分の記録がないので傍証となる資料は未確認である。又、同じ乙卯の年には延宝三（一六七五）年がそれに当るが『徳川実紀』には何も触れていない。恐らく演能はなかったものであろう。

いずれにしても、こうして元和偃武を祝つて、六十年に一度の能が全く同じ能組で江戸時代に少なくとも三回は、きちんと行われていた。しかも、その史実は池内信嘉氏の『能楽盛衰記』を始めとした江戸時代の能楽史研究書には誰一人気付いておられなかった。黎明館文書は、その意味でまとまった貴重な文書である。（この資料の説み取りは田口和夫氏より御教示を得た。）

鶴は他の能組とは性格を異にしたものである。「明治十六年」所演であることは、法政大学能楽研究所鴻山文庫蔵柳沢澄筆「明治時代能番組カード」で知り得た。

鶴以降は、ほゞひとまりのものである。しかも、その殆どが中央で名を知られていない地元薩摩藩乃至鹿児島の人であり、又、地元で行われたものであると思える。

中で、古いと思われるのは、年代不明であるが鶴の能組である。地謡に調所笑左衛門の名前が見える。すなわち、調所笑左衛門廣郷のことであり、手近な『鹿児島大百科辞典』（昭和五十六年九月・南日本新聞社）を見るに、一七七六（安永五）～一八四八（嘉永元）

年の人。島津重豪付の茶人をつとめることから始まり、御側用人ながら薩藩財政改革主任をもつとめたが、政変に巻き込まれ自害させられたと言う著名な人物である。その彼が謡を嗜んでいたとは興味ある事実ではあるまいか。謡好きであった重豪の影響もあったのかも知れない。勿論これは幕末の能組に属する。

能組の中で、シテに「小幡」姓が見られる。これはいわゆる手猿楽の虎屋が小幡とも名乗っているのだ、その虎屋の流れを汲むものであらうと思われる。それからあらぬか、シテ名で小幡壮八郎は合計五十回を数えることが出来、シテの中では一番多い出演回数である。小幡勇次郎は五回である。ちなみに多い者を挙げれば、外山真介が四十七回、竹崎仲之丞が三十四回、藤崎健左衛門が三十回、迫田猛彦が二十六回、石原渡右衛門が十七回、岩重清憲が十六回と言ったところが多い方である。

例は、調伏曾我・元服曾我・小袖曾我・夜討曾我・禪師曾我のいわゆる曾我もので、藝能史研究会終了後の座談で、堂本正樹氏が「およそ今日では考えられない能組の立て方」と驚かれたものである。

例は鹿児島における能楽近代黎明期の演者名簿で、一覧出来る貴重なものである。会員制度を取っていたようで、会長も据えている。今日では能役者が兼任している「装束着」「幕掛」が独立して

いるのが目を引く。能組と照らし合わせれば、彼等が何度も出演して、一人に任されていることが多いことがわかる。

まとめ

薩摩と能楽の関わりについては、最近では林和利氏が「薩摩藩主・島津重豪の生涯における能楽の享受」（『鹿児島女子大学研究紀要』第八巻第一号、昭和六十二年三月発行）を著わされた。第二十五代重豪（天保四年、八十九歳没）が十六歳の宝暦十（一七六〇）年に將軍家重・家治の転任兼任祝能を見学して以来、七十一歳の文化十二（一八一五）年、東照宮二百回神忌に近衛基前・甘露寺国長をもてなし薩摩藩高輪邸で八絃鼓／＼井筒／＼を演じた時までの御考察である。本稿の藝能史研究会東京例会発表（昭和六十一年十二月六日）前後から氏と鹿児島市内において意見を交換することも出来た。同氏稿にもあるように、鶴丸城内は勿論、城下には「天保年間に少なくとも三ヶ所に能舞台のあったことが明らか」である。これらの事実は薩摩における能楽を中心とした文化面の充実を示し得ていると言えよう。

たゞ、島津家寄託文書は能組は別として伝書的大部分は、江戸すなわち高輪の薩摩藩邸を中心として収集された公算の強い文書であ

る。それも文書に散見する大鼓大倉家から島津家に提供されたものであって、公式記録とはならなかったもの（以上、伊藤正義氏御教示）なのであらう。

今少し、手広く薩摩藩の館楽のテーマを掘りさげるべきであったかも知れないが、調査のしつ放しで空白の時間を置いたまゝにして来た。これでは、黎明館側にも報告を聞かれた方々にもいささか迷惑が掛かるうと思ひ、とりあえず基礎報告を行なつた。近世の地方館楽史への興味が起こりつつある昨今、ひとつの例として紹介し得たと思う。あとは特に地元の利を生かされた方々の後考を俟ちたい。ここに本稿をいったん了えるに当たり、島津忠承氏・黎明館に重ねて篤く御礼を申し述べる。